



本章の趣旨:

メッセージの確認と預言者たちの目的が一つであることおよびアッラーがかれらをいかにお助けになったかの説明。

説明:

①復活の日に人々の生前の行いが清算される日は近い。しかもそれは不意にこの世に忙しくあの世への備えに背を向けた状態のときにやって来るのである。

②主の御許よりクルアーンの新しい啓示が下されても、かれらはふざけて何の注意を払うこともない聞き方でしかないのである。

③心が散漫なまま聞くのである。不義をなす者たちは不信仰を秘めつつお互いに語り合う。「自分のことを使徒だと主張する奴はあなたたちと同じ人間で、何の特徴もないのだろうか。彼がもたらしたものは魔術だ。あなたたちと同じ人間であり、彼のもたらしたものは魔術であることがわかっていながら、彼に従うのか。」

④使徒(祝福と平安あれ)は言った。「私の主はあなたたちが秘めた話も知っておられ、天地において誰のどんな言葉もすべて知っておられます。かれこそは僕たちの言葉をすべて聞く御方であり、行いをすべてご存知の御方であり、それらに応じて報われるのです。」

⑤だが彼らはムハンマドがもたらしたことについて戸惑い、時には「解釈しようもない混ぜこぜの夢」と言い、時には「単なるでっちあげ」と言い、時には「詩人だ。もし彼の主張が誠実なものならば、初期の使徒たちがやって見せたような奇跡を見せてみる」と言う。確かに、以前の使徒たちは奇跡を起こした。ムーサーの杖やサーリフのラクダのように。

⑥これらの提案する者たちの前にも印の降臨を提案した村の民があったが、信じることはなかった。提案したままを与えられたにもかかわらず、それらを否定したため、われらは彼らを滅ぼしたのである。果たしてこれらの者たちは信じるだろうか。

⑦使徒よ、あなた以前にもわれらが遣わして啓示を下したのは人間の男たちだけであり、天使たちではなかった。だからもしあなたたちにそれについてわからないことがあれば、あなたたち以前の啓典の民に尋ねるがよい。

⑧また、われらが遣わした使徒たちで、食べ物を食べないでよい身体の持ち主を遣わしたことはない。皆、他の者が食べるように食べ、死なずにこの世にあり続ける者でもなかった。

⑨そうしてわれらは使徒に約束したことを成就し、彼ら使徒たちとわれらが望む僕たちを破滅から救ったが、アッラーを信じることなく罪を犯し続けて一線を越えた者たちは滅ぼしたのである。

⑩われらはもしあなたたちがそれを真実と受け止めて実践すれば、あなたたちにとって荣誉と誇りとなる事柄を有するクルアーンを下した。考えようとはしないのか。それを信じ、教えを実践すべく競い合おうとはしないのか。

本諸節の功德:

- 備えを要する清算の日の到来の近さ。
- 遊びに夢中になると、真理から遠ざかってしまうこと。
- アッラーの知識は、僕たる人間の言動すべてを覆い尽くしていること。
- 多神教徒の預言者(祝福と平安あれ)に対する立場の違いは、彼らの惑いと失態を示している。
- アッラーは使徒や信者たちが敵と対峙する際に支援と援助を与えてくださる。
- クルアーンはそれを信じ、実践する者にとって、荣誉かつ誇りである。

وَكَمْ قَصَمْنَا مِنْ قَبْرٍ كَانَتْ ظَالِمَةً وَأَنْشَأْنَا بَعْدَهَا قَوْمًا
 آخَرِينَ ﴿١١﴾ فَلَمَّا أَحْسَبُوا أَنَّ بَأْسَنَا إِذَا هُمْ مِنْهَا يَرْكُضُونَ ﴿١٢﴾
 لَا تَرْكُضُوا وَأَرْجِعُوا إِلَى مَا أُتْرِفْتُمْ فِيهِ وَمَسْكَنِكُمْ لَعَلَّكُمْ
 تُسْأَلُونَ ﴿١٣﴾ قَالُوا يَا بُولَاقًا إِنَّا كُنَّا ظَالِمِينَ ﴿١٤﴾ فَمَا زِلْتَ تِلْكَ
 دَعْوَاهُمْ حَتَّى جَعَلْنَاهُمْ حَصِيدًا خِلْمِينَ ﴿١٥﴾ وَمَا خَلَقْنَا
 السَّمَاءَ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا الْعِيبِينَ ﴿١٦﴾ لَوِ ادَّعَىٰ أَنْ تَتَّخِذَ
 لَهُمْ آلًا تَتَّخِذُهُ مِنْ لَدُنَّا إِنْ كُنَّا فَعَلِينَ ﴿١٧﴾ بَلْ نَقْذِفُ بِالْحَقِّ
 عَلَى الْبَاطِلِ فَيَدْمَغُهُ فَإِذَا هُوَ زَاهِقٌ وَلَكُمُ الْوَيْلُ مِمَّا تَصِفُونَ ﴿١٨﴾
 وَلَهُ وَمَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَنْ عِنْدَهُ وَلَا يَسْتَكْبِرُونَ
 عَنْ عِبَادَتِهِ وَلَا يَسْتَحْسِرُونَ ﴿١٩﴾ يُسَبِّحُونَ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ
 لَا يَفْتُرُونَ ﴿٢٠﴾ أَمْ اتَّخَذُوا إِلَهًا لَغْوًا يُفْسِدُونَ أَسْمَاءَ اللَّهِ
 لَوْ كَانَ فِيهِمَا آلُ اللَّهِ لَفَسَدَتَا فَسَبَّحَنَّا اللَّهَ رَبَّ الْعَرْشِ
 عَمَّا يَصِفُونَ ﴿٢١﴾ لَا يُسْأَلُ عَمَّا يَفْعَلُ وَهُمْ يُسْأَلُونَ ﴿٢٢﴾ أَمْ اتَّخَذُوا
 مِنْ دُونِهِ آلَٰهَةً فَلَهُمْ آيَاتٌ هَذَا ذِكْرٌ مِمَّا مَعِيَ وَذِكْرٌ
 مَن قَبْلِي بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ الْحَقَّ فَهُمْ مُّعْرِضُونَ ﴿٢٣﴾

11) 不信仰で不義をなしたためにわれらが滅ぼし、われらの創造した別の民に取って変えられた村のなんと多きことか。

12) 滅ぼされようとする者たちがわれらの徹底的な懲罰を見ると、彼らは初めて自分たちの村から破滅を逃れようと逃げ急ぐのである。

13) 嘲るように言われるのだ。「逃げてはならない。快楽を享受していたままの状態かつ自分の家に戻るのだ。この世のことで何か問われるかもしれないからだ。」

14) これらの罪を認めた不義の徒は言った。「我々は滅び、負け犬となるのだ。アッラーへの信仰を拒否したことで、我々は不義をなす者であった。」

15) 罪を認め、自らの滅びを呪うといったことを彼らは繰り返し、われらが彼らを収穫された穀物のように死んで動かなくなるまで続けた。

16) われらが天地を創造したのは、遊びや無意味なことではない。われらの力への証としてつくったのである。

17) 万が一われらが伴侶や子供を望めば、われらのもとにいる者をそうしただろう。だがそうしなかったのは、われらがそれとは無縁だからである。

18) むしろわれらが使徒へ啓示する真理を不信仰の民の虚偽に投げつけて虚偽を暴くと、彼らの虚偽は脆くも消え去る。神に伴侶や子供がいると唱える者たちよ、あなたたちにはかれに相応しくない描写をしたことで破滅が待っているのである。

伴侶や子供を持つことが必要性から来ているため、預言者(祝福と平安あれ)は神がこの世の所有者であられることを明確にすべく言った。

19) 完全無欠なかれにのみ、諸天と大地の王権はあり、その御許にいる天使たちが傲慢さからかれへの崇拜を拒否することはない。(崇拜行為をし続けても)疲れることはない。

20) アッラーへの讚美をいつもし続け、それに飽きることもない。

21) ところが多神教徒はアッラーのほかに神々を奉った。死者を蘇らせることもできないのに、どうして彼らを崇めるのか。

22) 万が一、諸天と大地に多数の崇められるべき存在がアッラー以外にいたならば、それらの王権争奪で混乱に陥っていただろう。だが、現実とは異なる。よって玉座の主、アッラーは多神教徒が「かれには仲間がいる」とでっち上げる主張とは無縁なのである。

23) アッラーこそが王権においても決定においても単独でなされる御方であり、誰にもかれが決めめたことを問うことはできない。むしろかれが僕たる人間に行いを問い、それに応じて報われるのである。

24) 彼らはそれにとどまらず、アッラーのほかに多くの崇拜対象をもうけた。使徒よ、これらの多神教徒に言いなさい。「これらのものが崇拜に値するという、あなたたちの証拠を見せてください。これは私に啓示された書です。他の使徒たちに下された天啓の書に、あなたたちを利する証拠はありません。」ほとんどの多神教徒には無知と慣例踏襲しか根拠がなく、背を向けて真理を受け入れようとはしないのである。

本諸節の功德:

- 不義は個人や集団を破滅に導く要因である。
- アッラーが意味もなくつくったものは何一つない。なぜなら、完全無欠なかれは、戯れとは無縁だからである。
- 真理が勝利し、虚偽が敗北するのは、神の摂理である。
- 多神教信仰の不可逆的論証による論破。

وَمَا أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ مِنْ رَسُولٍ إِلَّا نُوحِي إِلَيْهِ أَنَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا أَنَا فَاعْبُدُونِ ﴿٣٥﴾ وَقَالُوا اتَّخَذَ الرَّحْمَنُ وَلَدًا سُبْحَانَ اللَّهِ بَلْ عِبَادٌ مُكْرَمُونَ ﴿٣٦﴾ لَا يَسْبِقُونَهُ بِالْقَوْلِ وَهُمْ بِأَمْرِهِ يَعْمَلُونَ ﴿٣٧﴾ يَعْلَمُ مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَلَا يَشْفَعُونَ إِلَّا لِمَنْ أَرَادَ أَنْ ارْتَضَىٰ وَهُمْ مِنْ خَشْيَتِهِ مُشْفِقُونَ ﴿٣٨﴾ * وَمَنْ يَقُلْ مِنْهُمْ إِنِّي إِلَهٌ مِنْ دُونِهِ فَذَلِكَ نَجْزِيهِ جَهَنَّمَ كَذَلِكَ نَجْزِي الظَّالِمِينَ ﴿٣٩﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَنْ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ كَانَتَا تَرَاقِفَتَيْنِ مَطًّا وَجَعَلْنَا مِنَ الْمَاءِ كُلَّ شَيْءٍ حَيٍّ أَفَلَا يُؤْمِنُونَ ﴿٤٠﴾ وَجَعَلْنَا فِي الْأَرْضِ رَوَاسِي أَنْ تَمِيدَ بِهِمْ وَجَعَلْنَا فِيهَا فِجَاجًا سُبُلًا لَعَلَّهُمْ يَهْتَدُونَ ﴿٤١﴾ وَجَعَلْنَا السَّمَاءَ سَقْفًا مَحْفُوظًا وَهُمْ عَنْ آيَاتِهَا مُعْرَضُونَ ﴿٤٢﴾ وَهُوَ الَّذِي خَلَقَ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ كُلٌّ فِي فَلَكٍ يَسْبَحُونَ ﴿٤٣﴾ وَمَا جَعَلْنَا لِشَرٍّ مِنْ قَبْلِكَ خَلْقًا فَإِنْ مِتَّ فَهُمُ الْخَالِدُونَ ﴿٤٤﴾ كُلُّ نَفْسٍ ذَائِقَةُ الْمَوْتِ وَنَبَلُّوكُمُ بِالْإِسْرَارِ وَالْخَيْرِ فِتْنَةً وَإِلَيْنَا تُرْجَعُونَ ﴿٤٥﴾

الجزء

35)使徒よ、あなた以前に遣わした使徒で、崇拜に値するのは**われ**のみであり、**われ**だけを崇め、**われ**以外の存在を**われ**と同列に置いてはならないと啓示しなかったことではない。

36)多神教徒は言った。「アッラーは天使たちを自らの娘にしたのだ。」完全無欠な**かれ**は、彼らがでっち上げる言説とは無縁で格別に清浄な御方である。むしろ天使はアッラーの僕であり、**かれ**に大切にされ、近い存在である。

37)彼ら天使たちが主に先んじて発言することはなく、ご命令があるまでは発話しない。ご命令を実践し、決して違えることはない。

38)**かれ**こそ彼ら天使たちの行いを先んじて知っておられ、行いの後どうなるかも知っておられる。天使たちが執り成しを勝手にお願うことはなく、ただただ**かれ**のご満悦を得て執り成しを許可された者の執り成しを願うだけである。彼らは**かれ**を恐れて注意深くあり、命令においても禁止においても一切ご命令に背くことはない。

39)例えばの話として、天使のうち誰かが「アッラー以外にわれを崇めよ」と言ったならば、**われら**はその言葉により清算の日に永遠の火獄の懲罰でその者に報いるだろう。またこれと似た報いによってアッラーへの信仰を拒否し、多神崇拜で不義をなす者たちに報いるだろう。

40)アッラーを否定する者たちは、諸天と大地がかつて重なり合っていて、隙間なくそこから雨が降っていたのを**われら**が両者をわけ、天から地へ降る雨によりすべての動植物をつくったのを知らないのか。それを考慮してアッラーのみを信じようとはしないのか。

41)また**われら**は大地に不動の山をつくり、その上にいるものが落ち着けるようにした。そしてそこに広い道を用意した。きっと人々は迷わずに歩き、旅路における目的地に到達できるだろう。

42)そして**われら**は空を柱なしで落ちない天蓋とし、盗み聞きできないようにしたが、多神教徒たちは天空にある太陽や月などの数々の印に背を向け、全く顧みようとしない。

43)アッラーただお一人が夜を憩いのため、糧を得る仕事のために昼を創造され、太陽を昼の印として、月を夜の印として創造されたのである。太陽も月もそれぞれ特有の軌道で動き、逸れたり傾いたりすることはない。

44)使徒よ、**われら**はあなた以前の人間の誰もこの世にあり続ける者としたことはない。この世でのあなたの寿命が来て死んだ後も、彼らは生き残り続けるというのか。そんなことはあり得ない。

45)この世で命あるものはすべて、信者であれ、不信仰者であれ、死を味わうのである。人々よ、**われら**はあなたたちをこの世で責任遂行や恩恵、苦惱で試み、それから死後他のものではなく**われら**のもとへ戻り、行いに応じて報われるのだ。

本諸節の功德:

- アッラーは子をもうけることとは無縁である。
- アッラーの御許における天使の地位としては、**かれ**にお仕えるためにつくられ、男女で描写されることはなく、大切に扱われる僕である。
- 諸天と大地は、段階的進行の摂理に基づいて創造された。まず両者は重ね合わさった状態で造られ、それから分けられた。
- 試練は、災いによることもあれば、恵みによることもある。

وَإِذْ أَرَأَىٰكَ الَّذِينَ كَفَرُوا إِنْ يَتَّخِذُونَكَ إِلَّا هُزُوًا أَهَذَا
 الَّذِي يَذْكُرُ آلِهَتَكُمْ وَهُمْ يَذْكُرُونَ الرَّحْمَنَ هُمُ
 كَافِرُونَ ﴿٣٦﴾ خَلِقَ الْإِنْسَانَ مِنْ عَجَلٍ سَأُورِيكُمْ
 آيَاتِي فَلَا تَسْتَعْجِلُونِ ﴿٣٧﴾ وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَذَا الْوَعْدُ
 إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٣٨﴾ لَوْ يَعْلَمُ الَّذِينَ كَفَرُوا حِينَ
 لَا يَكْفُونَ عَنْ وُجُوهِهِمُ النَّارَ وَلَا عَنْ ظُهُورِهِمْ وَلَا
 هُمْ يُبْصِرُونَ ﴿٣٩﴾ بَلْ تَأْتِيهِمْ بَغْتَةً فَتَبْهَتُهُمْ فَلَا
 يَسْتَطِيعُونَ رَدَّهَا وَلَا هُمْ يُنظَرُونَ ﴿٤٠﴾ وَلَقَدْ أَسْتَهْزِئُ
 بِرُسُلٍ مِنْ قَبْلِكَ فَحَاقَ بِالَّذِينَ سَخِرُوا مِنْهُمْ مَا كَانُوا
 بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٤١﴾ قُلْ مَنْ يَكْفُرْكُمْ بِأَيِّلٍ وَالنَّهَارِ
 مِنَ الرَّحْمَنِ بَلْ هُمْ عَنْ ذِكْرِ رَبِّهِمْ مُعْرِضُونَ ﴿٤٢﴾
 أَمْ لَهُمْ آلِهَةٌ تَمْنَعُهُمْ مِنْ دُونِنَا لَا يَسْتَطِيعُونَ نَصْرَ
 أَنْفُسِهِمْ وَلَا هُمْ مِّنَّا يُصْحَبُونَ ﴿٤٣﴾ بَلْ مَتَّعْنَا هَؤُلَاءِ
 وَآبَاءَهُمْ حَتَّىٰ طَالَ عَلَيْهِمُ الْعُمُرُ أَفَلَا يَرَوْنَ أَنَّا نَأْتِي
 الْأَرْضَ نَنْقُصُهَا مِنْ أَطْرَافِهَا أَفَهُمُ الْغَالِبُونَ ﴿٤٤﴾

③⑥ 使徒よ、これらの多神教徒たちがあなたを見れば、きまって嘲笑し、彼らに従う者たちを遠ざけながら言うのである。「彼があなたたちの崇める神々を愚弄する奴か。」彼らはあなたへの嘲笑に加え、アッラーがクルアーンで下したものを故意に否定し、与えられた恩恵に覆いをかけて恩を忘れていた。悪という悪を集めた彼らこそ懲罰に相応しい。

③⑦ 人間は焦りやすいものである。事が起こる前に急かそうとする。その一例が、多神教徒たちが懲罰を急ぐことである。わが懲罰を急かす者たちよ、あなたたちが急かすものを見せてやろう。急くのを求めはしないだろう。

③⑧ 復活を拒否する不信仰者たちは言う。ムスリムたちよ、あなた方が来ると言う復活は、何時起こるのか、と。

③⑨ 万が一これらの復活を否定する不信仰者たちが、炎が顔や体から離れないのを知っていたなら、懲罰を払いのけて助けてくれる援助者はいないのを知っていたなら、懲罰を急ぐことはなかっただろう。

④① 彼らが苛まされているこの炎は、事前にわかっていた。むしろそれは突然やって来るのである。だからはね返すことはできず、慈悲を得られるよう悔い改めるまで遅らせることもない。

アッラーの使徒(祝福と平安あれ)が民の嘲笑と拒絶に悩んでいると、アッラーは彼を勇気付けるべく仰せられた。

④② たとえもしあなたの民があなたを嘲笑しても、あなたが初めてそれを経験するわけではない。使徒よ、あなたが以前の使徒たちも嘲笑されたのである。だが今や彼ら不信仰者が生前使徒たちの警告を馬鹿にしていた懲罰に包囲されている。

④② 使徒よ、懲罰を急ぐ者たちに言いなさい。「慈悲深き御方があなたたちに懲罰と破滅を下そうとされたら、昼夜あなたたちを守ってくれるのは誰でしょうか。」だが彼らは主の啓発と証拠に背を向け、無知と愚かさでそこにあるものを一切考慮しようとしなさい。

④③ それとも彼らにはわれらの懲罰を防いでくれる神々がいるのか。害をはねのけ、益をもたらして自分自身を助けることもできない。自分を助けることもできない存在が、他者をいかに助けられようか。われらの懲罰から逃れることもできないのに。

④④ むしろわれらはこれらの不信仰者に恵みを与え、彼らの父祖に恵みを与えることで、段階的な試練を与え、時が経つことで傲慢になり、不信仰を常とするようになった。われらの恩恵に驕り高ぶり、われらの懲罰を急かそうとするこれらの者たちにはわからないのか。われらが大地の端々から民を屈服させることで大地を侵食するのを、他の者に起きたことが自分には起きないよう、教訓を生かそうとはしないのか。彼らは勝利者ではない。打ち負かされる者なのである。

本諸節の功德:

- 言説であれ、行動であれ、ジェスチャーであれ、使徒をからかう者は不信仰に陥っている。
- 急かすのは人間の生まれ持った癖であり、落ち着きは優れた性格である。
- アッラーの懲罰から守ることができるのはアッラーだけである。
- 虚偽の先行きは消失であり、真理の先行きは存続である。

قُلْ إِنَّمَا أُنذِرُكُمْ بِالْوَحْيِ وَلَا يَسْمَعُ الصُّمُّ الدُّعَاءَ إِذَا مَا يُنذَرُونَ ﴿٤٥﴾ وَلَئِن مَّسَّتْهُمْ نَفْحَةٌ مِنْ عَذَابِ رَبِّكَ لَيَقُولُنَّ يُوَيْلَنَا إِنَّا كُنَّا ظَالِمِينَ ﴿٤٦﴾ وَتَضَعُ الْمَوَازِينَ الْقِسْطَ لِيَوْمِ الْقِيَامَةِ فَلَا تُظْلَمُ نَفْسٌ شَيْئًا وَإِنْ كَانَ مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِنْ خَرْدَلٍ أَتَيْنَا بِهَا وَكَفَى بِنَا حَاسِبِينَ ﴿٤٧﴾

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى وَهَارُونَ الْفُرْقَانَ وَضِيَاءً وَذِكْرًا لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٤٨﴾ الَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم بِالْغَيْبِ وَهُمْ مِنَ السَّاعَةِ مُشْفِقُونَ ﴿٤٩﴾ وَهَذَا ذِكْرٌ مُّبَارَكٌ أَنْزَلْنَاهُ أَفَأَنْتُمْ لَهُ مُنْكَرُونَ ﴿٥٠﴾ * وَلَقَدْ آتَيْنَا إِبْرَاهِيمَ رُشْدَهُ مِنْ قَبْلٍ وَكُنَّا بِهِ عَالِمِينَ ﴿٥١﴾ إِذْ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِ مَا هَذِهِ التَّمَاثِيلُ الَّتِي أَنْتُمْ لَهَا عَابِدُونَ ﴿٥٢﴾ قَالُوا وَجَدْنَا آبَاءَنَا لَهَا عَابِدِينَ ﴿٥٣﴾ قَالَ لَقَدْ كُنْتُمْ أَنْتُمْ وَآبَاؤُكُمْ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٥٤﴾ قَالُوا أَجِئْتَنَا بِالْحَقِّ أَمْ أَنْتَ مِنَ اللَّاعِبِينَ ﴿٥٥﴾ قَالَ بَلْ رَبُّكُمْ رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ الَّذِي فَطَرَهُنَّ وَأَنَا عَلَىٰ ذَٰلِكُمْ مِنَ الشَّاهِدِينَ ﴿٥٦﴾ وَتَاللَّهِ لَأَكِيدَنَّ أَصْنَامَكُمْ بَعْدَ أَنْ تُوَلُّوا مُدْبِرِينَ ﴿٥٧﴾

سورة الأنبياء

45 使徒よ、言いなさい。「人々よ、私の主が啓示してくださったことを基に、アッラーの懲罰によって皆さんに恐ろしい知らせをお伝えします。」だが、真理の聞こえない人は、アッラーの懲罰で脅かされても呼びかけを聞くことはできない。

46 使徒よ、もしこれらの懲罰を急かそうとする者たちに主の懲罰が降りかかったなら、彼らはその時言うだろう。「我々は滅び、負け犬となるのだ。我々はアッラーとは別のものを崇め、ムハンマドがもたらしたものを嘘としたことで、不義をなす者だった。」

47 清算の日に集められた民のために、**われら**は公平な秤で生前の行いをはかるだろう。その日、善行を差し引かれ、悪行が増えることで不当な扱いを受ける者は誰一人としていない。たとえ秤にかけられたものがけし粒のように小さなものであったとしても、僕の行いを把握する者としては**われら**で充分である。

48 **われら**はムーサーとハールーン(二人に平安あれ)に真理と虚偽、許されたものと禁じられたものを分かちものとして、信者への導き、主を意識する人への訓戒として律法書を与えた。

49 たとえ見たことがなくても主を信じ、その懲罰を恐れ、最後の時を恐れる者たちである。

50 ムハンマド(祝福と平安あれ)に**われら**が啓示したこのクルアーンは、訓戒を得て教訓を学ぼうとする人にとって訓戒であり、多くの善良さと利益をもたらすもの。それにもかかわらず、あなたたちはそれを否定かつ否認し、その教えを実践しようとしなないのか。

51 **われら**はイブラーヒームが幼少のころから知っており、彼の民への論証を与えた。**われら**の知識から彼に相応しい論証を与えたのである。

52 彼が父のアーザルと自分の民に言ったときのこと。「あなたたちが自分の手で作って崇め奉っている、これらの偶像は何でしょうか。」

53 彼の民は言った。「我々の父祖が崇めていたから、彼らに倣って我々もそうしているのだ。」

54 イブラーヒームは彼らに言った。「あなたたち慣習に倣う人たちも、あなたたちの父祖も、真理の道からは明らかに逸れて迷いの中にあります。」

55 彼の民は言った。「そんなことをお前は本気で言っているのか。それともからかっているのか。」

56 イブラーヒームは言った。「冗談ではなく本気です。あなたたちの主は、前例なしに諸天と大地を創造した御方。私はあなたたちの主こそが諸天と大地の創造主であることを証言する者の一人です。あなたたちの偶像にはとても真似のできないことです。」

57 イブラーヒームは民が聞こえないように言った。「アッラーに誓って、彼らが祭りに行った後で偶像にいたずらをしてやろう。」

本諸節の功德:

- 罪の自認は、時期を逸する前に悔悟を伴うのが条件である。
- アッラーの公平さの立証と、かれの不義の否定。
- アッラーへの伝教における弁証力の大切さ。
- 盲目的な踏襲の害。
- 悪行改善の際の段階的アプローチと容易なものから順に始めること。イブラーヒームは自分の民が行っていた悪行を改めようとする際にまず言葉と弁証から始め、それから行動に移った。

فَجَعَلَهُمْ جُذَاءً إِلَّا كَيْبَرًا لَعَلَّهُمْ لَئِيهَ يَرْجِعُونَ
 ٥٨ قَالُوا مَنْ فَعَلَ هَذَا بِآلِهَتِنَا إِنَّهُ وَلَمِنَ الظَّالِمِينَ
 ٥٩ قَالُوا سَمِعْنَا فَتَى يَدْعُرُهُمْ يُقَالُ لَهُ إِبْرَاهِيمُ
 ٦٠ قَالُوا فَأَتُوا بِهِ عَلَى أَعْيُنِ النَّاسِ لَعَلَّهُمْ يَشْهَدُونَ
 ٦١ قَالُوا أَنْتَ فَعَلْتَ هَذَا بِآلِهَتِنَا يَا إِبْرَاهِيمُ
 ٦٢ قَالَ بَلْ فَعَلَهُ وَكَيْدُهُمْ هَذَا فَاسْتَكْبَرُوا
 ٦٣ قَالُوا إِن كَانُوا يَبْتَغُونَ ٱنْفُسَهُمْ
 ٦٤ فَقَالُوا إِنَّا نَكْمُرُ أَنْتُمْ الظَّالِمُونَ
 ٦٥ ثُمَّ نَكْسُؤُا عَلَى رُءُوسِهِمْ لَقَدْ عَلِمْتَ مَا هَؤُلَاءِ يَبْتَغُونَ
 ٦٦ قَالَ أَفَتَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ مَا لَا يَنْفَعُكُمْ شَيْئًا وَلَا يَضُرُّكُمْ
 ٦٧ أَفَلَا تَعْقِلُونَ
 ٦٨ قَالُوا أَحَرِّقُوهُ وَانصُرُوا آلِهَتَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ فَاعِلِينَ
 ٦٩ وَأَرَادُوا بِهِ كَيْدًا فَجَعَلْنَاهُمُ الْأَخْسَرِينَ
 ٧٠ وَنَجَّيْنَاهُ وَلُوطًا إِلَى الْأَرْضِ الَّتِي بَارَكْنَا فِيهَا لِلْعَالَمِينَ
 ٧١ وَوَهَبْنَا لَهُ إِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ نَافِلَةً وَكُلًّا جَعَلْنَا صَالِحِينَ
 ٧٢

⑤⑧ そうしてイブラーヒームは彼らの偶像を粉々にし、わざと一番大きな偶像を残した。彼ら多神教徒が誰の仕業かをその大きな偶像に尋ねられるように。

⑤⑨ 彼らが戻り、偶像が粉々にされているのを見てお互いに尋ね合った。「我々の神々を壊したのは誰だ!? 壊した奴は本当にひどい奴だ。神聖に扱わねばならないのを粗末にするとはけしからん!」

⑥⑩ ある者は言った。「イブラーヒームという少年が偶像を批判して罵っていたのを聞いたぞ。きっと壊したのは彼だろう。」

⑥⑪ 彼らの頭領が言った。「イブラーヒームを皆の前に連れて来い。彼が自分のやったことを認めれば民衆が証人となり、彼の自白はあなたたちにとっての論証になるだろう。」

⑥⑫ そうしてイブラーヒームを連れて来て問いただした。「イブラーヒームよ、お前が我らの偶像にこんなひどいことをしたのか!？」

⑥⑬ イブラーヒームは民衆の面前で仰々しく偶像の不能を明らかにして言った。「私がしたものではありません。一番大きな偶像の仕業です。皆さんの偶像にお尋ねください。もし話することができるのなら。」

⑥⑭ 彼ら多神教徒は我に返って考えてみたが、そもそも偶像に利害をもたらすことができるわけがないのを悟った。アッラー以外に偶像を崇めたことで彼らは不義をなしたのである。

⑥⑮ それから彼らは頑固かつ頑迷になって言った。「イブラーヒームよ、お前は偶像が話などできないのをわかっているだろう。我らへ偶像に聞いてみよ、などとよく言えたものだ。」彼らはそれで論破したつもりだが、むしろ自分たちへの反証となったのである。

⑥⑯ イブラーヒームは彼らを否定しながら言った。「アッラーのほかにも利害をもたらすことのできない偶像を崇めるのですか? 偶像は自分を守ることも利することもできないのですよ。」

⑥⑰ あなたたちの情けないこと! アッラーのほかにもあなたたちが崇める、役立たずの偶像の情けないこと! 考えて

はみないのですか? 偶像崇拜をもうやめたらどうですか?」

⑥⑱ 議論では太刀打ちできないのを知ると、彼らは実力行使に出ようとして言った。「イブラーヒームを火あぶりにしてしまえ! あやつに壊されてしまった偶像に加勢して、懲らしめてやるのだ。」

⑥⑲ そうして彼らは火を焚いて彼を投げ入れたが、**われら**は言った。「炎よ、イブラーヒームのために冷たく穏やかであれ。」すると火はそうなり、彼は無事であった。

⑦⑰ イブラーヒームの民は彼を火あぶりにするという策を用いたが、**われら**がその策を無効にし、彼らのほうを滅びゆく敗北者としたのである。

⑦⑱ **われら**は彼とルートを救い、預言者たちを輩出させ、様々な恵みを産出する地とすることでその周りを祝福したシャーム(シリア地方)の地へ二人を連れ出した。

⑦⑲ そして子どもを授かるように彼(イブラーヒーム)が主に祈ったとき、われらはイスハークを授け、さらに(孫の)ヤアクーブも授け、イブラーヒームとその子孫二人のイスハークとヤアクーブを皆アッラーに忠実で敬虔な者とした。

本諸節の功德:

- 真理を明らかにし、虚偽を論破するための策略は許可されている。
- 虚偽の民は自分たちを弁護するものと思って議論するが、実際は反証となるだけである。
- 厳しい発言は、より大きな害をもたらさない限り悪行是正の一手段となり得る。
- 実力行使に出るのは、議論では太刀打ちできない証である。
- アッラーは信者の僕たちが試練に見舞われたとき、想定外のところから助けてくださる。

وَجَعَلْنَاهُمْ آيَةً يَهْتَدُونَ يَا أُولِي الْأَبْصَارِ إِنَّا إِلَهُكُمْ فَفَعَلُوا
 الْخَيْرَاتِ وَإِقَامَ الصَّلَاةِ وَإِيتَاءَ الزَّكَاةِ وَكَانُوا لَنَا
 عَابِدِينَ ﴿٧٦﴾ وَلَوْ طَآءَتْ أَيْدِيهِمْ حُكْمًا وَعِلْمًا وَنَجَّيْنَاهُ مِنَ
 الْقَرْيَةِ الَّتِي كَانَتْ تَعْمَلُ الْخَبِيثَاتِ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمَ سَوْءٍ
 فَلَسِقِينَ ﴿٧٧﴾ وَأَدْخَلْنَاهُ فِي رَحْمَتِنَا إِنَّهُ مِنَ الصَّالِحِينَ
 ﴿٧٨﴾ وَنُوحًا إِذْ نَادَى مِنْ قَبْلُ فَاسْتَجَبْنَا لَهُ وَنَجَّيْنَاهُ
 وَأَهْلَهُ مِنَ الْكَرْبِ الْعَظِيمِ ﴿٧٩﴾ وَنَصَرْنَاهُ مِنَ الْقَوْمِ
 الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمَ سَوْءٍ فَأَغْرَقْنَاهُمْ
 أَجْمَعِينَ ﴿٨٠﴾ وَدَاوُدَ وَسُلَيْمَانَ إِذْ يَحْكُمَانِ فِي الْحَرْثِ
 إِذْ نَفَسَتْ فِيهِ غَمْرُ الْقَوْمِ وَكُنَّا لِحُكْمِهِمْ شَاهِدِينَ ﴿٨١﴾
 فَفَهَّمْنَاهَا سُلَيْمَانَ وَكُلًّا آتَيْنَاهُمْ حُكْمًا وَعِلْمًا وَسَخَرْنَا
 مَعَ دَاوُدَ الْجِبَالَ يُسَبِّحْنَ وَالطَّيْرَ وَكُنَّا فَاعِلِينَ ﴿٨٢﴾
 وَعَلَّمْنَاهُ صَنْعَةَ لَبُوسٍ لَكُمْ لِيُخَصِّصَ كُمْ مِنْ بَاسِكِكُمْ
 فَهَلْ أَنْتُمْ شَاكِرُونَ ﴿٨٣﴾ وَسُلَيْمَانَ الرِّيحَ عَاصِفَةً تَجْرِي بِأَمْرِهِ
 إِلَى الْأَرْضِ الَّتِي بَرَكَتْنَا فِيهَا وَكُنَّا بِكُلِّ شَيْءٍ عَالِمِينَ ﴿٨٤﴾

73 われらは彼らを指導者とし、人々を善導して至高なるかれのお許しを得て、人々をアッラーにのみお仕えするよう呼びかけさせた。善行に勤しみ、礼拝を正しく捧げ、定めぬ施しを払うよう啓示を下したが、彼らはわれらに忠実であった。

74 ルートには、諍いにおける調停の才と宗教に関する知識をわれらは与えた。それから淫らな行いに耽っていた民のいた彼の村サドウム(ソドム)に下したわれらの懲罰から彼を救った。本当に彼らは退廃の民であり、主に従う道からは大きく外れた者たちであった。

75 彼の民を襲った懲罰から救い、彼をわれらの慈悲の中に入れた。彼はわが命令を果たし、禁止を避ける敬虔な者たちの一人であった。

76 使徒よ、ヌーフの物語を思い起こせ。イブラーヒームとルートよりも前に彼がアッラーに呼びかけたとき、われらはそれを聴き遂げて彼が頼んだものを与えた。そうしてわれらは彼とその家族のうちの信者を大きな災難から救ったのである。

77 彼の誠実さを明らかにする数々の印を否定した民の策略から救った。本当に彼らは退廃の民であり、悪しき民であったため、われらは彼らを全員水没させて滅ぼした。

78 使徒よ、ダーウードとその息子スライマーン(二人に平安あれ)の物語を思い起こせ。二人のもとに言い争う原告と被告の訴訟が上げられたときのこと。一方の羊が夜の間に他方の牧草を台無しにしてしまった。われらはダーウードとスライマーンの裁定の証言者であり、彼らの裁定でわからないことは何もない。

79 その件については、父のダーウードではなくスライマーンに理解を与えた。それぞれダーウードとスライマーンには預言者性と唯一の神の教えに関する知識を授け、スライマーンだけに与えたわけではない。ダーウードには讃美する山や鳥を従わせ、理解や権力、知識を与えて自在に操ることができるようにした。

80 またわれらはダーウードに武器から身を守る鎧の作り方を特別に教えた。人々よ、アッラーがあなたたちに恵んでくださった恩恵に感謝しようとはしないのか。

81 またわれらはスライマーンに風を従わせ、預言者たちを輩出させ、様々な恵みを産出する地とすることでその周りを祝福したシヤーム(シリア地方)の地へ激しい風を命じて向かわせた。われらはすべてを知り、わからないことは何一つない。

本諸節の功德:

- 善行、礼拝、施しは、天啓の教えすべてに共通のものである。
- 淫らな行いを犯すのは、殲滅の懲罰を受けるきっかけとなり得る。
- 敬虔さは、アッラーのお慈悲に包まれるきっかけである。
- 祈りは、苦難からの救済のきっかけとなる。

وَمِنَ الشَّيْطَانِ مَنْ يَعُودُونَ لَهُ وَيَعْمَلُونَ عَمَلًا دُونَ ذَلِكَ وَكُنَّا لَهُمْ حَفِيزِينَ ﴿٨٢﴾ وَأَيُّوبَ إِذْ نَادَىٰ رَبَّهُ وَآتَىٰ مَسْحَى الضُّرِّ وَأَنْتَ أَرْحَمُ الرَّحِيمِينَ ﴿٨٣﴾ فَاسْتَجَبْنَا لَهُ وَفَكَشَفْنَا مَا بِهِ مِنْ ضُرِّهِ وَآتَيْنَاهُ أَهْلَهُ وَوَسَّطْنَا لَهُم مَّعَهُمْ رَحْمَةً مِّنْ عِنْدِنَا وَذَكَرَى لِلْعَالَمِينَ ﴿٨٤﴾ وَأَسْمَاعِيلَ وَإِدْرِيسَ وَذَا الْكِفْلِ كُلٌّ مِنَ الصَّابِرِينَ ﴿٨٥﴾ وَأَدْخَلْنَاهُمْ فِي رَحْمَتِنَا إِنَّهُمْ مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٨٦﴾ وَذَا التَّوْبَةِ إِذْ ذَهَبَ مُغْضِبًا فَظَنَّ أَن لَّنْ نَقْدِرَ عَلَيْهِ فَنَادَىٰ فِي الظُّلُمَاتِ أَن لَا إِلَهَ إِلَّا أَنْتَ سُبْحَانَكَ إِنِّي كُنْتُ مِنَ الظَّالِمِينَ ﴿٨٧﴾ فَاسْتَجَبْنَا لَهُ وَوَجَّيْنَاهُ مِنَ الْعُغْمِ وَكَذَلِكَ نُفَصِّلُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٨٨﴾ وَذَكَرْنَا إِذْ نَادَىٰ رَبَّهُ رَبِّ لَا تَذَرْنِي فَرْدًا وَأَنْتَ خَيْرُ الْوَارِثِينَ ﴿٨٩﴾ فَاسْتَجَبْنَا لَهُ وَوَهَبْنَا لَهُ وَيْحَى وَأَصْلَحْنَا لَهُ وَزَوَّجْنَاهُ بِأَنْثَاهُمْ كَانُوا يُسْأَرُونَ فِي الْخَيْرَاتِ وَيَدْعُونَنَا رِعَابًا وَرَهَابًا وَكَانُوا لَنَا خَاشِعِينَ ﴿٩٠﴾

者の一人でした。』

⑧② またわれらは彼(スライマーン)のために海中から真珠などを持ち寄せたり、建設などの仕事をしたりする悪魔を従わせた。その数や行いをわれらはすべて把握し、監督下には何一つなかった。

⑧③ 使徒よ、アイユブ(平安あれ)の物語を思い起こせ。試練に見舞われて主に祈った時のこと。「主よ、私は病気となり、家族を失いました。あなたは誰よりも慈悲深い御方です。どうか私のこうむったものを遠ざけてください。」

⑧④ われらは彼の祈りに応え、彼のこうむった害を遠ざけ、失った妻や子供たちと、彼らに似た家族をもう一つ与えた。それはすべてわれらの慈悲から行ったことであり、アイユブのように耐え忍ぶよう、アッラーに信仰行為を捧げて忠実である者たち皆への訓戒として行ったのである。

⑧⑤ 使徒よ、イスマーイルとイドリース、そしてズルキフル(彼らに平安あれ)の物語を思い起こせ。それぞれが皆試練によく耐え忍び、アッラーに課せられたことを実践する者であった。

⑧⑥ われらは彼らをわが慈悲に入れ、預言者として天国へ入れた。本当に彼らは主に従い善行をなす敬虔な僕たちで、心に秘めたことも公にすることも正しい者たちであった。

⑧⑦ 使徒よ、鯨の友ユース(平安あれ)の物語を思い起こせ。主の許しを得ず彼の民の反抗ぶりに怒りながら行った時のこと。彼は(自分が)勝手に行ったことに対してわれらが懲罰で締め付けることはないと思ったが、鯨に吞まれて強烈な締め付けと狭苦しさに見舞われることとなった。鯨の腹の中や大海、夜の闇の中で彼は祈り、自分のあやまちを認めてアッラーに悔い改めて言った。「正しく崇められるべき存在はあなたのほかにありません。あなたこそ超越した至高なる御方。私は本当に不義をなす

⑧⑧ そうしてわれらは彼の祈りに応え、暗闇と鯨の腹の中から抜け出させて強烈な困難から救い出した。こうしてユースを苦難から救い出したように、われらは苦難に陥ってアッラーに祈る信者を救うのである。

⑧⑨ 使徒よ、ザカリーヤ(平安あれ)の物語を思い起こせ。「主よ、どうか私を後継ぎなしの一人のまま放っておかないでください。あなたこそ最良のかたちで存続させる御方。どうか私の後を継ぐ子供をお恵みください。」と完全無欠な主に祈った時のこと。

⑧⑩ われらは彼の祈りに応え、ヤハヤーを子として授け、不妊だった彼の妻を癒して子供が産めるようにした。本当にザカリーヤとその妻、そしてその息子は率先して善行に勤しむ者であり、われらのもとにある報奨を願って祈り、懲罰を恐れ、われらに謙虚に身をかがめて祈る者であった。

本諸節の功德:

- 敬虔さは慈悲を得るきっかけとなる。
- アッラーに縋ることが苦難打開の手段となる。
- 死後の後継ぎとなる善良な子孫を求める美德。
- 罪を認め、アッラーへの必要性を感じ、己の状態を訴え、順調なときにもアッラーに忠実であることは、祈りへの応答と害悪解消のきっかけとなる。

وَأَلَّتْ أَحْصَنَتْ فَرْجَهَا فَنَفَخْنَا فِيهَا مِنْ رُوحِنَا
 وَجَعَلْنَهَا وَأَبْنَاهَا آيَةً لِلْعَالَمِينَ ﴿٩١﴾ إِنَّ هَذِهِ
 أُمَّتُكُمْ أُمَّةً وَاحِدَةً وَأَنَا رَبُّكُمْ فَاعْبُدُونِ ﴿٩٢﴾
 وَتَقَطَّعُوا أَمْرَهُمْ بَيْنَهُمْ كُلُّ إِلَيْنَا رَجِيعُونَ ﴿٩٣﴾
 فَمَنْ يَعْمَلْ مِنَ الصَّالِحَاتِ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَلَا كُفْرَانَ
 لِسَعِيدِهِ وَإِنَّا لَهُ وَكِيلُونَ ﴿٩٤﴾ وَحَرَّمْ عَلَى قَرِينَةٍ
 أَهْلَكْنَاهَا أَنَّهُمْ لَا يَرْجِعُونَ ﴿٩٥﴾ حَتَّىٰ إِذَا فُتِحَتْ
 يَأْجُوجُ وَمَأْجُوجُ وَهُمْ مِنْ كُلِّ حَدَبٍ يَنْسِلُونَ ﴿٩٦﴾
 وَأَقْرَبَ الْوَعْدِ الْحَقُّ فَأِذَا هِيَ شَاخِصَةٌ أَبْصُرُ الَّذِينَ
 كَفَرُوا يُؤْيَبْنَا قَدْ كُنَّا فِي عَفْوَهِ مِنْ هَذَا بَلْ كُنَّا
 ظَالِمِينَ ﴿٩٧﴾ إِنَّكُمْ وَمَا تَعْبُدُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ
 حَصْبُ جَهَنَّمَ أَنْتُمْ لَهَا وَارِدُونَ ﴿٩٨﴾ لَوْ كَانَ
 هَؤُلَاءَ آلهَةً مَا وَرَدُوهَا وَكُلٌّ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٩٩﴾
 لَهُمْ فِيهَا زَفِيرٌ وَهُمْ فِيهَا لَا يَسْمَعُونَ ﴿١٠٠﴾ إِنَّ الَّذِينَ
 سَبَقَتْ لَهُمْ مِنَّا الْحُسْنَىٰ أُولَٰئِكَ عَنْهَا مُبْعَدُونَ ﴿١٠١﴾

91 使徒よ、貞節を守ったマルヤム(平安あれ)の物語を思い起こせ。アッラーがジブリール(平安あれ)を彼女のもとに遣わせて息吹きを吹きかけ、イーサー(平安あれ)を身ごもった。そして彼女とその息子イーサーはアッラーのお力を示す印となったのである。父親なしに子をなしたが、**かれ**にできないことは何もない。

92 人々よ、これがあなたたちの唯一の宗教である。それが崇めるべきは唯一の神のみとするイスラームの教えである。**われ**があなたたちの主であり、**われ**にのみ信仰行為を捧げよ。

93 そうして人々は分裂し、それぞれ一神教徒や多神教徒、不信仰者や信者となった。だがこうした分裂した者たちも皆一様に清算の日には**われら**のもとへ帰り行くのであり、**われら**は彼らの行いに応じて報いるのである。

94 よって彼らのうち、アッラーとその使徒たち、そして最後の日信じて善行を果たし、自分の善行に偉ぶることなくその報奨をアッラーに感謝する者には、**かれ**はその報奨を倍加される。その者は自分の行いの書を復活の日に見て喜ぶのである。

95 不信仰によって**われら**に滅ぼされた村の民がこの世に戻って悔い改め、その悔悟が受け入れられることは不可能である。

96 たとえヤアजूージュとマアजूージュ(ゴグとマゴグ)の壁が開かれたとしても、彼らが戻ることは決してなく、彼らはその日地上の丘という丘全てから駆け出してくる。

97 彼らの出現は清算の日が近いことを意味し、その激しく辛い状態が明らかとなる。不信仰者の目は激しい光景を前に見開かれ、言うのである。「我々はもうお終いだ。生前我々は遊び呆けてこの偉大な日のために何の準備もしなかった。むしろそれどころか、不信仰と罪を重ねて悪さばかりしていた。」

98 あなたたち多神教徒とアッラーのほかにあなたたちの崇める偶像よ、人間とジンであなたたちの崇拜に満足するものは皆地獄の業火の燃料である。あなたたちとあなたたちが崇めるものがそこに入れられるのだ。

99 もしこれらの崇拜対象が本当に崇められるべき神々であったなら、地獄に入れられることなどなかっただろう。だが実際は(偽物を)崇めてきた者も(偽物ながらも)崇められてきた者も皆地獄行きであり、永遠にそこにとどまって決して出られないのである。

100 彼らにはそこでの苦痛が強烈なあまり吐く息も激しく、火獄の中では恐ろしさのあまり何も聞こえない。

101 多神教徒が、「崇拜対象とされていたイーサー(イエス)や天使たちも地獄行きのはずだ」と言うと、アッラーは仰せられた。「アッラーの知によってイーサー(平安あれ)のように幸福の民として知られていた者は、火獄からは遠ざけられるのである。」

本諸節の功德:

- 貞節の何たるかとその美德。
- 天啓宗教における共通点とは、信仰対象の唯一化と、信仰行為の基本である。
- ヤアजूージュとマアजूージュの壁が開かれるのは、清算の日到来の大きな予兆の一つである。
- 清算の日のための準備に不注意であることは、その恐怖に苛まされる原因となる。

لَا يَسْمَعُونَ حَسِيسَهَا وَهُمْ فِي مَا اشْتَهَتْ أَنْفُسُهُمْ
 خَالِدُونَ ﴿١٢٤﴾ لَا يَخْرُجُ لَهُمُ الْفَرْعُ الْأَكْبَرُ وَتَتَلَقَّاهُمُ
 الْمَلَائِكَةُ هَذَا يَوْمُكُمْ الَّذِي كُنْتُمْ تُوعَدُونَ ﴿١٢٥﴾
 يَوْمَ نَطْوِي السَّمَاءَ كَطَيِّ السِّجِلِّ لِلْكُتُبِ كَمَا بَدَأْنَا
 أَوَّلَ خَلْقٍ نُعِيدُهُ وَعَدَّا عَلَيْنا إِنَّا كُنَّا فاعِلِينَ ﴿١٢٦﴾ وَلَقَدْ
 كَتَبْنَا فِي الزَّبُورِ مِنْ بَعْدِ الذِّكْرِ أَنَّ الْأَرْضَ يَرْثُهَا
 عِبَادِي الصَّالِحُونَ ﴿١٢٧﴾ إِنَّ فِي هَذَا لَبَلَاغًا لِقَوْمٍ
 عابِدِينَ ﴿١٢٨﴾ وَمَا أَرْسَلْنَاكَ إِلَّا رَحْمَةً لِّلْعَالَمِينَ
 ﴿١٢٩﴾ قُلْ إِنَّمَا يُوحِي إِلَيَّ أَنَّمَا إِلَهُكُمُ اللَّهُ وَحْدَهُ فَهَلْ
 أَنْتُمْ مُسْلِمُونَ ﴿١٣٠﴾ فَإِنْ تَوَلَّوْا فَقُلْ إِنْ كُنْتُمْ عَلَىٰ سَوَاءٍ
 وَإِنْ أَدْرِي أَقْرَبُ أَمْ بَعِيدٌ مَّا تُوعَدُونَ ﴿١٣١﴾ إِنَّهُ وَيَعْلَمُ
 الْجَهْرَ مِنَ الْقَوْلِ وَيَعْلَمُ مَا تَكْتُمُونَ ﴿١٣٢﴾ وَإِنْ أَدْرِي
 لَعَلَّهُ فِتْنَةٌ لَّكُمْ وَمَتَاعٌ إِلَىٰ حِينٍ ﴿١٣٣﴾ قُلْ رَبِّ أَحْكُم
 بِالْحَقِّ وَرَبُّنَا الرَّحْمَنُ الْمُسْتَعَانُ عَلَىٰ مَا تَصِفُونَ ﴿١٣٤﴾

⑫④火獄の音が彼らの聴覚に達することはない。恩恵や悦楽など、自我が欲するものに浸ることができるだろう。その恵みが途絶えることはないのである。

⑫⑤火獄に相応しい者に炎が降りかかる際、そのとてつもない彼らを恐れさせることはない。天使たちは祝いの言葉で迎えて言うだろう。「これこそあなたが生前この世で約束されていた日であり、得られる恩恵の吉報を受けていた日です。」

⑫⑥われらが天をまるで帳簿を閉じるように折りたたむ日、生きとし生けるものを最初に創造された姿で復活させる。われらはそれを違えることのない約束で約束した。われらは約束したことを達成するのである。

⑫⑦われらは守護された碑板に記した後で使徒たちへ下した書に記した。「大地はアッラーに忠実にお仕える敬虔な僕たち、すなわちムハンマド(祝福と平安あれ)の共同体が継ぐ。」

⑫⑧われらが下した訓戒には、主に命じられた通りにお仕える民への利益や充足があり、彼らこそがそれを役立て得るのである。

⑫⑨ムハンマドよ、われらがあなたを使徒として遣わしたのは、生きとし生けるものへの慈悲としてに他ならない。それはあなたが人々の導きとアッラーの懲罰からの救済を気にかけるからである。

⑫⑩使徒よ、「私の主から啓示が下されたのは、あなたたちが本当に崇めるべきは唯一であり、並ぶ者なき御方アッラーです。だからかれを信じ、従いなさい」と言いなさい。

⑫⑪それらの者たちがあなたのもたらしたものに背を向けたなら、使徒よ、彼らに言いなさい。「私は皆さんと同じでいつアッラーの約束された懲罰が下されるかは知らない

سورة الحج
 ٢٢ آياتها
 ٧٨ آياتها
 預言者たち章 331 部 17

とお伝えしたはずです。」

⑫⑫本当にアッラーはあなたたちが何を言うかも、何を隠し立てするかもご存知であり、何一つわからないことはなく、それに応じて報いられるのである。

⑫⑬私にはわかりませんが、ひょっとするとあなたたちに懲罰をすぐに下されないのは、あなたたちへの試練かつ段階的尋問であり、あなたたちが不信仰と迷妄にあり続けるようアッラーの知に定められた特定の期限までの享樂としてかもしれません。」

⑫⑭アッラーの使徒(祝福と平安あれ)は主に祈りつつ言われた。「主よ、私たちと不信仰に固執し続ける私たちの民との間を真理の裁断で分けてください。あなたたちが言う不信仰や嘘に対し、私たちは慈悲深き私たちの主に助けを求めます。」

本諸節の功德:

- 敬虔さこそ地上で勢力を得るきっかけである。
- 預言者(祝福と平安あれ)が遣わされたこと、かの人の教えと生き方は、あらゆるものへの慈悲である。
- 使徒(祝福と平安あれ)はガイブ(幽玄界、目に見えない世界)を知らない。
- アッラーは僕が何を発言するかをご存知である。

本章の趣旨

至高にして完全無欠なアッラーとかれの定めた儀礼を偉大で大切なものとみなし、アッラーのご命令に委ねること。

説明:

①人々よ、命じられたことを果たし、禁じられたことをやめることで、あなたたちの主を意識せよ。清算の日に伴って生じる大地震その他の恐ろしい出来事は一大事であり、アッラーを喜ばせるような善行でもってそれに備えねばならない。

②その日、授乳中の母親が乳飲み子への気をそらし、恐ろしさのあまり妊婦が流産してしまうのを見るだろう。そして人々は壮絶な状況を前に際してまるで酔っ払いのように理性を失ったかのような状態となるのを見るだろう。酒を飲んだわけではないが、アッラーの懲罰があまりに恐ろしく、理性を失わせたのである。そうしてアッラーが清算の日に伴う恐ろしい光景を述べられると、清算と復活の日を否定する者たちに対して仰せられた。

③中にはよって立つ知識もなく、その思い込みや言説において主に歯向かう悪魔たちや道に迷った指導者たちに従い、死者復活へのアッラーの御力に反論する人々がいる。

④人間やジンの悪魔からなるそうした反抗者には、その者に従い、その主張を信じた者は真理の道を踏み外し、不信仰や違反行為とともに炎の懲罰へと連行されると定められた。

⑤人々よ、もしあなたが死後の復活に関するわれらの力に疑いを持つなら、あなたたちの創造についてよく考えてみよ。われらはあなたたちの父祖アダムを土から創った。それからその子孫を男が女の子宮に射出する精子によって創った。それからその精子は血の塊となり、それからその血の塊はかみ砕かれた肉の欠片のような肉片となり、それからその肉片は生きた赤子として生まれてくるまで姿かたちの整った被造物として子宮に残るか、あるいは不整合な被造物として子宮が流してしまうかとした。それはあなたたちの創造の段階を通してわれらの力をあなたたちに明らかにするためである。われらは子宮の中で胎児が生まれるまでの9ヵ月という定めの間落ち着かせ、それからあなたたちを子供として母親の胎内から出でさせるのである。やがて力と理性の成熟に達するだろう。中にはその前に死んでしまう者もいるが、中には老齢に達して力や理性が弱まり、子供よりもひどく無力な状態になって自分がどんなことをしていたかわからなくなるまで生きる者もいる。また、植物が一つもない枯れた大地に雨をわれらが降らせれば、植物が芽生え始め、植物が生い茂るようになり、様々なすべての植物からそれぞれ実が成る美しい光景を見るだろう。

本諸節の功德:

- 清算の日を前に、唯一の神を意識する敬虔さによって備えておかなければならない。
- 授乳中の母親が乳飲み子を忘れ、妊婦が流産し、人々が理性を失ってしまうほどの清算の日の激しい恐ろしさ。
- 被造物における段階的対応は、神の摂理である。
- 最初の創造は、復活が可能なのことの証である。
- 雨により大地に植物が芽生え、生い茂るようになるという現象は、死者復活の生きた証である。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَا أَيُّهَا النَّاسُ اتَّقُوا رَبَّ كُمْرًا إِنَّ زَلْزَلَةَ السَّاعَةِ شَيْءٌ عَظِيمٌ

① يَوْمَ تَرَوُنَّهَا تُذْهِلُ كُلَّ مَرْضِعَةٍ عَمَّا أَرْضَعَتْ وَتَضَعُ

كُلَّ ذَاتِ حَمَلٍ حَمْلَهَا وَتَرَى النَّاسَ سُكَرَىٰ وَمَاهُ

بِسُكَرَىٰ وَلَكِنَّ عَذَابَ اللَّهِ شَدِيدٌ ② وَمِنَ النَّاسِ مَنْ

يُجَادِلُ فِي اللَّهِ بِغَيْرِ عِلْمٍ وَيَتَّبِعُ كُلَّ شَيْطَانٍ مَّيْدٍ ③

كُتِبَ عَلَيْهِ أَنَّهُ مَنْ تَوَلَّاهُ فَإِنَّهُ يُضِلُّهُ وَيَهْدِيهِ

إِلَىٰ عَذَابِ السَّعِيرِ ④ يَا أَيُّهَا النَّاسُ إِنْ كُنْتُمْ فِي رَيْبٍ

مِّنَ الْبَعْثِ فَإِنَّا خَلَقْنَاكُمْ مِّن نُّرَابٍ ثُمَّ مِنْ نُطْفَةٍ

ثُمَّ مِنْ عَلَقَةٍ ثُمَّ مِنْ مُّضْغَةٍ مُّخَلَّقَةٍ وَغَيْرِ مُّخَلَّقَةٍ لِّنُبَيِّنَ

لَكُمْ وَتُقَرَّرُ فِي الْأَرْحَامِ مَا نَشَاءُ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى ثُمَّ

نُخْرِجُكُمْ طِفْلًا ثُمَّ لَتَبَلَّغُوا أَشَدَّكُمْ وَمِنْكُمْ مَّنْ يَمُوتُ

وَمِنْكُمْ مَّنْ يُرَدُّ إِلَىٰ أَرْدَلِ الْعُمُرِ لِكَيْلَا يَعْلَمَ مِنْ

بَعْدِ عِلْمٍ شَيْئًا وَتَرَى الْأَرْضَ هَامِدَةً فَإِذَا أَنْزَلْنَا عَلَيْهَا

الْمَاءَ أَهْتَزَّتْ وَرَبَّتْ وَأَنْبَتَتْ مِنْ كُلِّ زَوْجٍ بَهِيجٍ ⑤

ذَلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْحَقُّ وَأَنَّهُ يُحْيِي الْمَوْتَى وَأَنَّهُ وَعَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٦﴾ وَأَنَّ السَّاعَةَ آتِيَةٌ لَا رَيْبَ فِيهَا وَأَنَّ اللَّهَ يَبْعَثُ مَنْ فِي الْقُبُورِ ﴿٧﴾ وَمِنَ النَّاسِ مَنْ يُجَادِلُ فِي اللَّهِ بِغَيْرِ عِلْمٍ وَلَا هُدًى وَلَا كِتَابٍ مُنِيرٍ ﴿٨﴾ ثَانِي عَظْفِهِ لِيُضِلَّ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ لَهُ فِي الدُّنْيَا خِزْيٌ وَنُذِيقُهُ يَوْمَ الْقِيَامَةِ عَذَابَ الْحَرِيقِ ﴿٩﴾ ذَٰلِكَ بِمَا قَدَّمْت يَدَاكَ وَأَنَّ اللَّهَ لَيْسَ بِظَلَمٍ لِلْعَبِيدِ ﴿١٠﴾ وَمِنَ النَّاسِ مَنْ يَعْبُدُ اللَّهَ عَلَى حَرْفٍ فَإِنْ أَصَابَهُ خَيْرٌ اطْمَأَنَّ بِهِ وَإِنْ أَصَابَتْهُ فِتْنَةٌ انْقَلَبَ عَلَى وَجْهِهِ خَسِرَ الدُّنْيَا وَالْآخِرَةَ ذَٰلِكَ هُوَ الْخَسِرَانُ الْمُتَمِينُ ﴿١١﴾ يَدْعُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ مَا لَا يَنْصُرُهُمْ وَمَا لَا يَنْفَعُهُمْ ذَٰلِكَ هُوَ الضَّلَالُ الْبَعِيدُ ﴿١٢﴾ يَدْعُوا لَمَنْ ضَرُّهُ أَقْرَبُ مِنْ نَفْعِهِ لَيْسَ الْمَوْلَىٰ وَلَيْسَ الْعَشِيرُ ﴿١٣﴾ إِنَّ اللَّهَ يَدْخُلُ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ إِنَّ اللَّهَ يَفْعَلُ مَا يُرِيدُ ﴿١٤﴾ مَنْ كَانَ يَظُنُّ أَن لَنْ يَنْصُرَهُ اللَّهُ فِي الدُّنْيَا وَالْآخِرَةِ فَلْيَمْدُدْ بِسَبَبٍ إِلَى السَّمَاءِ ثُمَّ لِيَقْطَعْ فَلْيَنْظُرْ هَلْ يُدْهِبَنَّ كَيْدَهُ وَمَا يَعِظُ ﴿١٥﴾

⑥ あなたたちの創造の初期段階から出生の状態に至るまで、**われら**があなたたちに述べたことは、あなたたちが崇めている偶像とは違って疑いの余地なく真理なる御方であり、あなたたちを創造されたアッラーを信じるためであり、**かれ**が死者を蘇らせ、全能なる御方であり、なにも**かれ**を打ち負かすことはできないことを信じるためである。

⑦ それから最後の時が間違いなくやって来るのを信じ、アッラーが死者をその墓から復活させ、その行いに応じて報いられるのを信じるためである。

そうして完全無欠なアッラーは盲従による迷いの状態を第3節で述べられると、この節で不信仰の頭領格の迷いの状態を述べるべく仰せられた。

⑧ 不信仰者の中には、真理到達に必要な知識もなく、道を示す導き手に従うわけでもなく、導きとなるアッラーから啓示された光輝く書物に従うわけでもなく、アッラーの唯一性について議論する者がいる。

⑨ 人々を信仰やアッラーの教えに入信することから遠ざけるため、傲慢に首を突き出す者たち。この特徴を持つ者は、やがて受ける懲罰によってこの世でも卑しめられ、燃え盛る懲罰をあの世界で**われら**が味わわせるだろう。

⑩ 彼には言われるのだ。「お前が味わう懲罰は、お前が得た不信仰や違反行為のせいだ。アッラーは罪がなければ誰も罰したりはされないのだ。」

⑪ 人々の中には、疑いを持ちながらアッラーにお仕えする精神が不安定な者もいる。健康や富などのよいことが起これば、信仰やアッラーへの崇拝にあり続けるが、病気や貧困に襲われれば自分の宗教に悲観的になり、背教してしまう。この世を損ない、不信仰が当人の定めとして記されていないこの世の幸運を増やしてくれることは

なく、やがて出くわすアッラーの懲罰によりあの世も損なうことになる。それこそが明らかな損失なのである。
⑫ アッラーのほかにとたとえ背いても害をなすことはなく、たとえ従っても益をもたらすことのない偶像を崇める。偶像へのその祈りは、害にも益にもならない。それこそが真理から遠く離れ去った迷いである。

⑬ この偶像を崇める不信仰者は、失った益よりも相応しい害により近い。役立つどころかむしろ害をもたらすような崇められるものなんとひどいことか。助けを求める援助者として、連れ添う友としてなんとひどいことか。

⑭ 本当にアッラーは**かれ**を信じてよい行いをする者たちを、城下を川が流れる天国に入れてくださる。アッラーはその慈悲で誰に慈悲をかけるか、その罰で誰を罰するか、お望みのことをなされる。完全無欠な**かれ**に無理強いさせることのできる者はいない。

⑮ アッラーがその預言者(祝福と平安あれ)をこの世とあの世で助けることはないと思う者は、家の天井からロープを垂らして首を吊るがよい。それから自分の内側にあるその憎しみが消え去ったかどうかをよく見てみよ。反抗者が好むと好まざるとにかかわらず、アッラーはその預言者を助けられるのである。

本諸節の功德:

- 導きのきっかけとなるのは、真理へといぎなう知識か、それを示してくれる導き手か、導きとなり信頼に値する書物である。
- 傲慢さは真理到達の妨げとなる性格である。
- 罪なしに罰することはないのは、アッラーの公平さの表れである。
- 不信仰者たちが嫌がろうとも、アッラーはその預言者と宗教を助けられる。

⑮復活への明らかな証の数々をわれらがあなたたちに示したように、ムハンマド(祝福と平安あれ)にわれらはクルアーンと明らかな印の数々を下した。アッラーはその恩恵によりお望みの者に導きの道への成功を与えられるのである。

⑯この共同体とユダヤ教徒、サービア教徒(ある預言者たちの信奉者)、キリスト教徒、ゾロアスター教徒、偶像崇拜者の中でアッラーを信じる者は、アッラーは彼らの間を清算の日に裁かれ、信者は天国へ、その他は火獄へ入れられるだろう。本当にアッラーは僕たちの言動すべての証言者であり、何一つ不明瞭なことはなく、それに応じて報いられるのである。

⑰使徒よ、あなたは知らなかったのか。諸天の天使たちや大地の人間やジンの信者たちが忠誠の平伏礼をし、太陽や月、空の星や山や木や動物が服従の平伏礼をするのを。多くの人々が忠誠の平伏礼をする一方で、多くの人々がそれを拒みもする。彼らにはその不信仰でアッラーの懲罰を受けるに相応しい身となってしまう。本人の不信仰によりアッラーから恥辱を与えられる者には、誰一人丁重に扱ってくれる者などいない。アッラーはお望みのことをなされ、完全無欠なかれに無理強ひさせることのできる者はいない。

そうしてアッラーは忠実に平伏礼をする者とそれを拒む者について明らかにされると、続けてそれぞれの先行きについて仰せられた。

⑱自分たちのほうが正しいと主について言い争う二つの集団がある。信仰の集団と、不信仰の集団である。不信仰の集団については、服がそれを着る人を覆うように炎に覆われることになり、これ以上ない熱さの熱湯を頭の上からかけられるのである。

⑲お腹の中にあるものが激しい熱さで溶けてしまい、皮をつたっては溶ける。

⑳彼らには火獄の中に鉄でできた金槌(かなづち)があり、天使たちがそれで頭を打ち付けるのである。

㉑火獄の中で味わわれる苦痛があまりに激しいためにそこから逃げ出そうとするたびに戻され、言われるのだ。「燃え盛る懲罰を味わえ」と。

㉒信仰の集団はアッラーを信じて善い行いをした者たちであり、アッラーは城下や木々の根元を川が流れる天国に入れてくださる。アッラーは彼らを金の腕輪や真珠の腕輪で着飾ってくださり、そこでの衣服は絹となるのである。

وَكَذَلِكَ أَنْزَلْنَاهُ آيَاتٍ يُبَيِّنَاتٍ وَأَنْتَ اللَّهُ يَهْدِي مَنْ يُرِيدُ
 ⑮ إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَالَّذِينَ هَادُوا وَالصَّابِغِينَ وَالنَّصْرِي
 وَالْمَجُوسَ وَالَّذِينَ أَشْرَكُوا إِنَّ اللَّهَ يَفْصِلُ بَيْنَهُمْ يَوْمَ
 الْفَيْكَةِ إِنَّ اللَّهَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ⑯ أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ
 يَسْجُدُ لَهُ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَمَنْ فِي الْأَرْضِ وَالشَّمْسُ
 وَالْقَمَرُ وَالنُّجُومُ وَالْجِبَالُ وَالشَّجَرُ وَالْدَّوَابُّ وَكَثِيرٌ مِّنَ
 النَّاسِ وَكَثِيرٌ حَقَّ عَلَيْهِ الْعَذَابُ وَمَنْ يُهِنَ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِن
 مُّكْرِمٍ إِنَّ اللَّهَ يَفْعَلُ مَا يَشَاءُ ⑰ * هَذَا نَحْنُ خَصَمَانِ
 أَحْتَصِمُوا فِي رَبِّهِمْ فَالَّذِينَ كَفَرُوا قُطِعَتْ لَهُمْ ثِيَابٌ
 مِّنْ نَّارٍ يُصَبُّ مِنْ فَوْقِ رُءُوسِهِمُ الْحَمِيمُ ⑱ يُصْهَرُ بِهِ
 مَا فِي بُطُونِهِمْ وَالْجُلُودُ ⑲ وَلَهُمْ مَقْلَعٌ مِّنْ حَدِيدٍ ⑳ كَلَّمَا
 أَرَادُوا أَنْ يَخْرُجُوا مِنْهَا مِنْ غَمٍّ أُعِيدُوا فِيهَا وَذُوقُوا عَذَابَ
 الْحَرِيقِ ㉑ إِنَّ اللَّهَ يُدْخِلُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
 جَنَّاتٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ يُحَلَّوْنَ فِيهَا مِنْ
 أَسَاوِرَ مِنْ ذَهَبٍ وَلُؤْلُؤًا وَلِبَاسُهُمْ فِيهَا حَرِيرٌ ㉒

本諸節の功德:

- 導きはアッラーの御手によるものであり、僕たちのうちお望みの者に与えられる。
- アッラーの監督は人間の行いや状態すべてに及ぶ。
- すべての被造物がアッラーに対して恐れ畏まるよう定められているが、信者の畏まり方は(意思に基づく)忠節からのものである。
- 懲罰は不信仰や罪の民に下り、慈悲は信仰と忠節の民に確かなものである。

وَهُدُوا إِلَى الطَّيِّبِ مِنَ الْقَوْلِ وَهُدُوا إِلَى صِرَاطِ الْحَمِيدِ ﴿٤٤﴾
 إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا وَيَصُدُّونَ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ وَالْمَسْجِدِ
 الْحَرَامِ الَّذِي جَعَلْنَاهُ لِلنَّاسِ سَوَاءً الْعَاكِفُ فِيهِ وَالْبَادِ
 وَمَنْ يُرِدْ فِيهِ بِالْحَادِ بِطُورٍ نُدَقُهُ مِنْ عَذَابِ أَلِيمٍ
 ﴿٤٥﴾ وَإِذْ بَوَّأْنَا لِإِبْرَاهِيمَ مَكَانَ الْبَيْتِ أَنْ لَا تُشْرِكْ
 بِي شَيْئًا وَطَهِّرْ بَيْتِيَ لِلطَّائِفِينَ وَالْقَائِمِينَ وَالرُّكَّعِ
 السُّجُودِ ﴿٤٦﴾ وَأَذِّنْ فِي النَّاسِ بِالْحَجِّ يَا أُولِيَ الْأَعْيُنِ
 عَلَى صَامِرٍ يَأْتِينَ مِنْ كُلِّ فَجٍّ عَمِيقٍ ﴿٤٧﴾ لِيَشْهَدُوا
 مَنَافِعَ لَهُمْ وَيَذْكُرُوا أَسْمَاءَ اللَّهِ فِي أَيَّامٍ مَعْلُومَاتٍ
 عَلَى مَا رَزَقَهُمْ مِنْ بَهِيمَةِ الْأَنْعَامِ فَمَا كُنُوا مِنْهَا
 وَأَطَعُوا ﴿٤٨﴾ الْبَائِسَ الْفَقِيرَ ﴿٤٩﴾ ثُمَّ لِيَقْضُوا تَفَثَهُمْ
 وَلِيُوفُوا نُدُورَهُمْ وَيُطَوَّفُوا بِالْبَيْتِ الْعَتِيقِ ﴿٥٠﴾
 ذَلِكَ وَمَنْ يُعْظَمَ حُرْمَتِ اللَّهِ فَهُوَ خَيْرٌ لَهُ وَعِنْدَ
 رَبِّهِ وَأُحِلَّتْ لَكُمْ الْأَنْعَامُ إِلَّا مَا يَتْلَى عَلَيْكُمْ
 فَاجْتَنِبُوا الرِّجْسَ مِنَ الْأَوْثَانِ وَاجْتَنِبُوا قَوْلَ الزُّورِ ﴿٥١﴾

状態を解除し、爪を切り、巡礼着をまもって禁忌の状態になることで積もった体の汚れを洗い流せ。そしてハッジやウムラ、あるいはハドユ(贖いの供儀)といった自分に課した行いを全うし、アッラーが不当な権力を振りかざす輩から解放した館(カアバ殿)を大挙の回礼でもって回礼せよ。

●30 剃髪と爪を切ること、体の汚れを取り除くことで禁忌の状態を解除し、誓いを果たし、館(カアバ殿)を回礼するといったあなたが命じられたことが、アッラーがあなたたちに義務付けたことである。よってアッラーが義務付けられたことを尊べ。巡礼着をまとった禁忌状態でアッラーが避けるよう命じられたことやアッラーの定めた境界線を尊び、禁止を犯さないように避けることは、アッラーの御許においてはその当人にとってこの世とあの世で良いこととなる。人々よ、ラクダや牛や羊といった家畜はあなたたちに許可された。何頭か子どものできたラクダであるハーミーヤ、ある数の子を産むと耳の切られるラクダであるバヒーラ、メスを産み続けたワスイーラというラクダを特に禁じられたわけではない。かれが禁じたのは、死肉や血などクルアーンで見つけられるものだけである。偶像という穢れを遠ざけ、アッラーやその被造物に対する嘘偽りから遠ざかれ。

本諸節の功德:

- 禁忌のあるアッラーの館(カアバ殿)は、他の場所よりも違反行為を犯さないよう一層の注意を要する。
- 禁忌のあるアッラーの館は、信徒たちにとって時と場所を越えた憧れの地である。
- ハッジの利益は、この世とあの世にかかわらず人々に帰されるものである。
- 恩恵への感謝は、弱者への同情を伴うものである。

●24 アッラーは彼らをこの世で良い言葉へ導かれた。例えばそれは、「アッラーのほかには神なし」や「アッラーは至大なり」「アッラーにすべての称賛あれ」などである。それからかれは彼らを誉れあるイスラームの道へと導かれた。

●25 アッラーを信じようとせず、他の人たちをイスラームから遠ざけようとし、フダイビヤの(和議の)年(ヒジュラ暦年≒西暦627年)に多神教徒がしたように禁忌のある礼拝所(マスジド・ハラーム)から人々を遠ざける者には、われらは痛ましい懲罰を味わわせるだろう。われらが人々の礼拝の方角とし、ハッジ(大巡礼)やウムラ(小巡礼)の儀礼を果たす場所の一つとされたかの礼拝所では、マッカ在住の者もそうでない来訪者も等しく、わざと違反行為をしようとして真理から逸れる者には、われらは痛ましい懲罰を味わわせるだろう。

●26 使徒よ、われらがイブラーヒーム(平安あれ)に行方知れずとなっていた館の場所とその境界線を明らかにしたときのことを思い起こせ。そして彼にわれを崇めるうえで同列の者を置かず、われにのみ仕え、わが館を回礼する者や礼拝する者のために物心両面で清めよと啓示したときのことを。

●27 またわれらがあなた(預言者イブラーヒーム)に建立を命じた館に巡礼するよう人々に呼びかけたときのことを。歩きで、あるいは歩き疲れた家畜に乗ってやって来る者や、遠方からラクダに担がれてやって来る者もある。

●28 罪の赦しや報奨の獲得、信徒間の機運統一などの利益を得るため、そして定めの日々、すなわちズルヒジャ月10日とその後の3日間に捧げる供儀にアッラーの御名を唱え、ラクダや牛や羊といった恵みをアッラーに感謝するためである。よってそれらの供儀から食べ、貧困にあえぐ者に食べさせるがよい。

●29 それからハッジの残りの儀礼を果たし、剃髪で禁忌の

حُنَفَاءَ لِلَّهِ غَيْرَ مُشْرِكِينَ بِهِ ۚ وَمَنْ يُشْرِكْ بِاللَّهِ فَكَأَنَّمَا خَرَّ مِنَ السَّمَاءِ فَتَخَطَفَهُ الطَّيْرُ أَوْ تَهْوَى بِهِ الرِّيحُ فِي مَكَانٍ سَحِيقٍ ۗ

ذٰلِكَ ۗ وَمَنْ يُعَظِّمْ شَعَائِرَ اللّٰهِ فَاِنَّهَا مِنْ تَقْوٰى الْقُلُوْبِ ۗ

لَكُمْ فِيهَا مَنَافِعُ اِلَىٰ اَجَلٍ مُّسَمًّى ۗ فَمِنْهَا لِآلِ الْبَيْتِ الْعَتِيقِ ۗ

وَلِكُلِّ اُمَّةٍ جَعَلْنَا مَنَسْكَ لِتَذْكُرُوْا اَسْمَ اللّٰهِ عَلٰى مَا رَزَقْتَهُمْ مِنْ بَهِيمَةٍ اَلَّا يَغْفِرَ فَاِلَهُكُمْ اِلٰهٌ وَّحِدٌ ۗ فَلَهُ وَاَسْمَاُۙ اَوْ بَشِيْرَ الْمُحْسِنِيْنَ ۗ

الَّذِيْنَ اِذَا ذُكِرَ اللّٰهُ وَجِلَّتْ قُلُوْبُهُمْ وَالصّٰبِرِيْنَ عَلٰى مَا اَصَابَهُمْ وَالْمُتَّقِيْنَ الصّٰلٰوةِ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ يُنفِقُوْنَ ۗ

وَالْبَدَنَ جَعَلْنَاهَا لَكُمْ مِنْ شَعَائِرِ اللّٰهِ لَكُمْ فِيهَا خَيْرٌ ۗ فَاذْكُرُوْا اَسْمَ اللّٰهِ عَلَيْهَا صَوَافٍ ۗ اِذَا وَجَبَتْ جُنُوْبُهَا فَكُلُوْا مِنْهَا وَاَطْعَمُوْا ۗ الْقَانِعُ وَالْمُعْتَرُ ۗ كَذٰلِكَ سَخَّرْنَاهَا لَكُمْ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُوْنَ ۗ

لَنْ يَنَالَ اللّٰهُ لُحُوْمَهَا وَلَا دِمَاُۙهَا ۗ وَلٰكِنْ يَنَالُهُ التَّقْوٰى مِنْكُمْ ۗ كَذٰلِكَ سَخَّرَهَا لَكُمْ لِتُكَبِّرُوْا اللّٰهَ عَلٰى مَا هَدٰىكُمْ ۗ وَبَشِيْرَ الْمُحْسِنِيْنَ ۗ

اِنَّ اللّٰهَ يَدْفَعُ عَنِ الَّذِيْنَ ءَامَنُوْا اِنَّ اللّٰهَ لَا يَجِبُ كُلَّ خَوَٰنٍ كَفُوْرٍ ۗ

الحج

31 **かれ**がよしとする宗教以外の宗教に傾いてしまわないようにそれらを避けよ。信仰行為において**かれ**に誰一人として(同位者を)並べ立ててはならない。アッラーに別の者を並び立てる者は、天から落ちたに等しい。鳥がその肉と骨をついばむか、風が遠い所へ飛ばしてしまうだろう。

32 それがアッラーの命じられたことであり、**かれ**のみにお仕えし、かれに純真な気持ちを捧げ、偶像や嘘偽りを避けることである。贖いの供儀やハッジの諸儀礼もその一つである。様々な宗教の印を尊ぶ者は、主を意識する心があるからこそ、それらを尊ぶのである。

33 あなたたちが館(カアバ殿)で屠る供儀には様々な利益がある。例えば乗り物や毛皮や家畜増大の子孫や乳である。それはアッラーが不当な権力を振りかざす輩から解放した館(カアバ殿)のそばで犠牲を捧げてから一定の期間続く。

34 過去の共同体すべてにアッラーへの犠牲として血を流す儀式があった。ラクダや牛や羊といった家畜の恩恵をアッラーに感謝して、供儀に差し出す家畜を屠る際にアッラーの御名を唱えればと期待してのことである。人々よ、あなたたちが本当に崇めるべきは唯一であり、**かれ**にのみ従順で忠実であれ。使徒よ、恐れ畏まる誠実な者たちには、彼らが喜ぶことを告げよ。

35 アッラーが言及されるとその懲罰を恐れ、そのご命令に背くことから遠ざかろうとし、試練に襲われれば耐え忍び、礼拝を完全に果たし、アッラーに与えられた糧のうち一部をよいに費やす者たち(にである)。

36 館(カアバ殿)へ捧げられるラクダや牛を**われら**は宗教のシンボリックなものとした。あなたたちにとってそれには宗教的かつ世俗的な利益がある。それを屠るときには(供儀に捧げるに)相応しい特徴にかなっているかを確認し、暴れないように足を縛ったうえで「アッラーの御名において」と唱えよ。供儀を捧げる者たちよ、屠った後でぐったりと倒れたあとは、その一部を食し、遠慮して物乞いしやうとしない貧者にわけ与え、それを寄せと求める貧者にわけ与えよ。あなたたちの荷物を載せたり、あなたたち自身を乗せたりできるよう**われら**が家畜を従順にしたように、アッラーに近づくための犠牲として屠る際にもそれらを従順なものとした。きっとあなたたちはそれらの家畜を従順なものとしてくださったことに対して、アッラーに感謝するだろう。

37 あなたたちの捧げる供儀の肉や血がアッラーに届くのではなく、それらが**かれ**のもとへ高められることはない。そうではなくて、**かれ**に近づこうとするうえでそのご命令に誠実に従おうとするあなたたちのアッラーを意識するその気持ちが**かれ**のもとへ高められるのである。そのようにアッラーはあなたたちが真理へと導かれたことを感謝してアッラーを称えられるようにそれら(家畜)を従順なものとした。使徒よ、主への信仰行為やその被造物との接し方に誠心誠意を尽くす者たちに、彼らが喜ぶことを告げよ。

38 本当にアッラーは信者をその敵の悪から守ってくださる。アッラーは信頼を裏切る者、その恵みへの恩義を忘れて感謝しないだけでなく、**かれ**を憎む者は皆好まれない。

本諸節の功德:

- 物理的な装いで精神的な意味合いが理解しやすいようにたとえを挙げるのは、効果的な教育手段である。
- 謙虚さの美德。
- 誠意を尽くすことは、幸福のきっかけとなる。
- 信仰は、僕たる人間にとってアッラーのお守りとご加護を得るきっかけとなる。

اذْنِ الَّذِينَ يَقْتُلُونَ يَا نَهْمُ ظُلُمًا وَإِنَّ اللَّهَ عَلَىٰ نَصْرِهِمْ لَقَدِيرٌ
 ﴿٣٣٨﴾ الَّذِينَ أُخْرِجُوا مِنْ دِيَارِهِمْ بِغَيْرِ حَقٍّ إِلَّا أَنْ يَقُولُوا
 رَبَّنَا اللَّهُ وَلَوْلَا دَفْعُ اللَّهِ النَّاسَ بَعْضَهُمْ بِبَعْضٍ لَهَدَمَتِ
 صَوَامِعُ وَبِيَعٌ وَصَلَوَاتٌ وَمَسَاجِدُ يُذَكَّرُ فِيهَا اسْمُ اللَّهِ
 كَثِيرًا وَلِيَنْصُرَنَّ اللَّهُ مِنَ يَشَاءُ وَإِنَّ اللَّهَ لَقَوِيٌّ
 عَزِيزٌ ﴿٣٣٩﴾ الَّذِينَ إِنْ مَكَنْتُمْ فِي الْأَرْضِ أَقَامُوا الصَّلَاةَ
 وَآتَوُا الزَّكَاةَ وَأَمَرُوا بِالْمَعْرُوفِ وَنَهَوْا عَنِ الْمُنْكَرِ
 وَلِلَّهِ عَاقِبَةُ الْأُمُورِ ﴿٣٤٠﴾ وَإِنْ يُكَذِّبُوكَ فَقَدْ كَذَّبَتْ
 قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ وَعَادٌ وَثَمُودٌ ﴿٣٤١﴾ وَقَوْمُ إِبْرَاهِيمَ وَقَوْمُ
 لُوطٍ ﴿٣٤٢﴾ وَأَصْحَابُ مَدْيَنَ وَكَذَّبَ مُوسَىٰ فَأَمَلَيْتُ لِلْكَافِرِينَ
 ثُمَّ أَخَذْتُهُمْ فَكَيْفَ كَانَ نَكِيرِ ﴿٣٤٣﴾ فَكَايَنَ مِنَ قَرْيَةٍ
 أَهْلَكْنَاهَا وَهِيَ ظَالِمَةٌ فِيهَا خَاوِيَةٌ عَلَىٰ عُرُوشِهَا وَبَنِي
 مُعَظَلَةَ وَقَصْرٍ مَشِيدٍ ﴿٣٤٤﴾ أَفَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَتَكُونَ
 لَهُمْ قُلُوبٌ يَعْقِلُونَ بِهَا أَوْ آذَانٌ يَسْمَعُونَ بِهَا فَإِنَّهَا
 لَا تَعْمَى الْأَبْصَارُ وَلَكِن تَعْمَى الْقُلُوبُ الَّتِي فِي الصُّدُورِ ﴿٣٤٥﴾

至高のアッラーが信者を守ってくださるということを明らかにされると、彼らの心は安堵し、そこで**かれ**は不信仰者との戦いを許可して仰せられた。

③③⑨ 多神教徒が戦いをしかけてくる信者にアッラーは戦いを許可された。敵が不義を行ったからである。アッラーは信者を戦いなしで敵に勝たせることもできるが、不信仰者との戦いを通して信者を試みるという英知があったのである。

③④① 不信仰者が家から追い出した者たちは、何か罪を犯したわけではなく、「我々の主はアッラーであり、他にはいない」と言っただけであった。もし万が一アッラーが預言者たちや信者たちに敵との戦いを法で定めなかったならば、敵対する者たちは信仰の場所にまで攻め入っただろう。修道院や教会、シナゴグやムスリムの礼拝所としてアッラーを数多く思い起こすマスジドも破壊してしまっただろう。アッラーはその宗教と預言者を助ける者をきっと助けてくださる。本当にアッラーはその宗教を助ける者を助けるうえで強靱な御方であり、誰も**かれ**を打ち負かすことはできないのである。

③④② 勝利を約束されたこれらの者たちは、敵に勝って落ち着けば礼拝を完全なかたちで捧げ、財産の中から施しを払い、法が命じることを命じ、禁じることを禁じる者である。アッラーのみにこそ、信賞必罰の万事は帰するのである。

③④③ 使徒よ、たとえあなたの民があなたを拒否しようとも、耐え忍ぶのだ。使徒たちの中で自分の民に拒否されたのはあなたが初めてではない。あなたの民以前にも、ヌーフの民はヌーフを拒否し、アード族はアードを、サムード族はサーリフを拒否した。

③④④ イブラーヒームの民はイブラーヒームを拒否し、ルートはルートに拒否したのだ。

③④⑤ マドヤンの者たちはシュアイブを拒否し、ファラオとその

の民はムーサーを拒否したが、**われ**は彼ら(預言者たちを拒否した民)を段階的な試練に合わせるために罰を遅らせ、それから彼らを罰したのである。だから彼らに対する**われ**の否認のあり方をよく見つめてみよ。**われ**は彼らをその不信仰のせいで滅ぼしたのである。

③④⑥ 不信仰で不義をなしたために**われら**が徹底的な懲罰で滅ぼし、誰一人住人のいなくなった村、枯れ果てた井戸、懲罰を前には何の役にも立たなかった絢爛豪華な高くそびえたつ城のなんと多いことか。

③④⑦ 使徒がもたらしたものを拒否するこれらの者たちは、各地を旅して滅んだ村の数々の遺跡を訪れ、教訓を得るべく頭を働かせて考え、先人の物語を聞くうえで学ぼうとはしなかったのか。盲目な者とは、目が見えない者のことをいうのではなく、教訓も学びも得られずにわざと自分を破滅へと追いやる、心眼の見えない者のことである。

本諸節の功德:

- 力と威厳の二つの特徴をアッラーに定めていること。
- 信仰行為を捧げる場所を守るため、ジハードが許可されたこと。
- 宗教を確立することが僕たる信者にとってアッラーの助けを得るきっかけであること。
- 心眼が見えないのは、アッラーの様々な印から教訓を得る妨げである。

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ وَلَنْ يُخْلِفَ اللَّهُ وَعْدَهُ وَإِنَّ يَوْمًا
عِنْدَ رَبِّكَ كَأَلْفِ سَنَةٍ مِّمَّا تَعُدُّونَ ﴿٤٧﴾ وَكَأَيِّن مِّن
قَرِيبةٍ أَمَلَيْتُ لَهَا وَهِيَ ظَالِمَةٌ لِّهَا وَلِئِنَّمَا يَأْتِيهَا النَّاسُ
إِنَّمَا أَنَا لَكُمْ نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٤٨﴾ فَأَلْذِينَ
ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَهُمْ مَغْفِرَةٌ وَرِزْقٌ كَرِيمٌ ﴿٤٩﴾
وَالَّذِينَ سَعَوْا فِي آيَاتِنَا مُعْجِزِينَ أُولَئِكَ أَصْحَابُ
الْجَحِيمِ ﴿٥٠﴾ وَمَا أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ مِنْ رَسُولٍ وَلَا نَبِيٍّ إِلَّا
إِذَا تَمَتَّى أَلْقَى الشَّيْطَانُ فِي أُمْنِيَّتِهِ فَيَنْسَخُ اللَّهُ مَا يُلْقِي
الشَّيْطَانُ ثُمَّ يُحْكِمُ اللَّهُ آيَاتِهِ وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿٥١﴾ لِيَجْعَلَ
مَا يُلْقِي الشَّيْطَانُ فَتَنَةً لِلَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ وَالْقَاسِيَةِ
قُلُوبُهُمْ وَإِنَّ الظَّالِمِينَ لَفِي شِقَاقٍ بَعِيدٍ ﴿٥٢﴾ وَلِيَعْلَمَ
الَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ أَنَّهُ الْحَقُّ مِنْ رَبِّكَ فَيُؤْمِنُوا بِهِ
فَتُخَيِّبَ لَهُمْ قُلُوبُهُمْ وَإِنَّ اللَّهَ لَهَادٍ لِلَّذِينَ ءَامَنُوا إِلَى صِرَاطٍ
مُسْتَقِيمٍ ﴿٥٣﴾ وَلَا يَزَالُ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي مَرِيَّةٍ مِنْهُ حَتَّى
تَأْتِيَهُمُ السَّاعَةُ بَغْتَةً أَوْ يَأْتِيَهُمْ عَذَابٌ يَوْمٍ عَقِيمٍ ﴿٥٤﴾

47)使徒よ、あなたの民のうち不信仰者は彼らが警告されたこの世で先に与えられる懲罰やあの世で後回しにされる懲罰を急かす。アッラーが約束を違えることはない。先に与えられたものとしては、バドルの日に起きたことがある。あの世での懲罰は、激しい懲罰のあまり1日がこの世の千日に相当するかのようである。

48)すぐには懲罰を与えず、不信仰で不義をなしたために段階的な試練を与えるものとしてわれらが時間の猶予を与えた村がどれほどあったことか。そうして彼らには徹底的な懲罰を下したのである。審判の日には、われらにのみ彼ら(人間)の帰りどころがあり、不信仰には常なる懲罰でもって報いよう。

49)言いなさい、「人々よ、私はあなた方への警告者として私が遣わされたものを伝えるだけ。私の警告は明らかなもの。」

50)アッラーを信じて善行を行う者には、罪に対する主のお赦しがあり、天国では尽きることのない良い糧があるだろう。

51)われらの印を拒否することに勤しむ者は、アッラーの力を引き留めて懲罰を受けずに済むと思っているが、彼らこそ火獄の民であり、友がいつも連れ添うように火獄にまともわりつかれるだろう。

52)使徒よ、われらがあなた以前に使徒や預言者を遣わしてアッラーの書を読み上げると、決まって悪魔がその読誦に啓示と勘違いするような人々を惑わすものを投げ込んだ。そこでアッラーは悪魔が投げ込むものを無効とされ、かれの印を確かなものとされるのである。アッラーは全知なる御方であり、かれにとって不鮮明なものは何一つない。創造、構想、計画すべてにおいて英明なる御方である。

53)悪魔が預言者の読誦に投げ込むのは、アッラーが偽信者や多神教徒のうち心が頑なになった者への試練としてそれを変えるためである。偽信者や多神教徒で不義をなす者は、アッラーとその使徒との敵対関係にあり、真理や正導からは遠く離れてしまっている。

54)アッラーに知識を授けられた者はムハンマドに啓示されたクルアーンこそがアッラーの啓示された真理であると確信せよ。使徒よ、だから彼らはそれでさらに信仰を高め、かれに心を従わせ、かれを恐れよ。本当にアッラーは信者をその従順さに報いて曲がったところのない真っすぐな道へと導いてくださる御方である。

55)アッラーを信じようとせず、その使徒を拒否する者はいまだにアッラーがあなたにクルアーンで啓示したものを疑っている。そのまま突然最後の時(あるいは慈悲も善もない懲罰、すなわちかれらにとっての審判の日)がやって来るまでそうあり続けるのである。

本諸節の功德:

- 不義をなす者が調子に乗って不義を重ねるのを放っておく段階的試練は、神の習わしである。
- アッラーの書は、改ざんや改変、悪魔の仲間たちの策略からアッラーによって守られている。
- 偽善と心の頑なさは致命的な病である。
- 信仰は知識の成果であり、アッラーのご命令への従順さと畏敬の念は信仰の成果である。

الْمَلِكُ يَوْمَئِذٍ لِّلَّهِ يَخُكُّمُ بَيْنَهُمْ فَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فِي حَتَّى التَّعْمِيرِ ﴿٥٦﴾ وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا فَأُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ مُّهِينٌ ﴿٥٧﴾ وَالَّذِينَ هَاجَرُوا فِي سَبِيلِ اللَّهِ ثُمَّ قُتِلُوا أَوْ مَاتُوا لَيَرْزُقَنَّهُمُ اللَّهُ رِزْقًا حَسَنًا وَإِنَّ اللَّهَ لَهُوَ خَيْرُ الرَّازِقِينَ ﴿٥٨﴾ لَيَدْخِلْنَهُمْ مُّدْخَلَ بَرَئَاتٍ بَل لَّيْسَ بِذَلِكَ بِمَا عَاقَبَ بِمِثْلِ مَا عَاقَبَ بِهِ ثُمَّ بُغِيَ عَلَيْهِ لِيَنَّصَرَّتْهُ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ لَعَفُوفٌ غَوْرٌ ﴿٥٩﴾ ذَلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ يُولِجُ اللَّيْلَ فِي النَّهَارِ وَيُولِجُ النَّهَارَ فِي اللَّيْلِ وَأَنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿٦٠﴾ ذَلِكَ بِأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْحَقُّ وَأَبَّ مَا يَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ هُوَ الْبَاطِلُ وَأَنَّ اللَّهَ هُوَ الْعَلِيُّ الْكَبِيرُ ﴿٦١﴾ أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَتَصْبِحُ الْأَرْضُ مُخْضَرَّةً إِنَّ اللَّهَ لَطِيفٌ خَبِيرٌ ﴿٦٢﴾ لَهُ وَمَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ وَإِنَّ اللَّهَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿٦٣﴾

الْحِجَّةُ السَّابِعُ عَشَرَ

⑤⑤ 王権は審判の日(すなわちこれらの者が警告されていた懲罰がやって来るその日)にはアッラーにのみあり、覇権を争う者はない。至高なるかれは信者と不信仰者の間をそれぞれに相応しいかたちで裁かれる。アッラーを信じて善い行いをする者には、尽きることのない恵みの天国という偉大な報奨がある。

⑤⑥ だが、アッラーを信じようせず、われらの使徒に下された印を拒否する者には、火獄でアッラーの辱めにあわせられる恥辱的な懲罰がある。

⑤⑦ アッラーのご満悦を求め、自分の宗教を大切にしようとする家や故郷を離れ、かれの道におけるジハードで殺されるか死んでしまいかした者には、アッラーが天国で尽きることのない良い糧を与えてくださるだろう。本当にアッラーは糧を与える者の中でも最良の御方。

⑤⑧ アッラーは彼らが満足する天国に入れてくださる。本当にアッラーは彼らの行いもその意図も知っておられ、彼らがやり過ぎたことを懲罰で急かされなかった温和な御方である。

⑤⑨ ここで言及されたのは、アッラーの道における移住者の天国入りと敵対者には罪を負うことなく同じように敵対してよいという許可である。敵対者が敵対行為を繰り返すなら、アッラーは敵対行為を受けた側を助けてくださり、信者の罪を帳消しにし、何度も赦してくださるのである。

⑥① 敵対行為を受けた側の助けがあるのは、アッラーが万能なる御方だからである。かれの力を示すものには、昼夜の入替をそれぞれ長短の差と共になされるということがあり、アッラーは僕たちの言葉を聞き、その行いを知る御方である。かれにとって不鮮明なことは何一つなく、行いに応じて報いられる。

⑥② ここで言及されたアッラーのお力による昼夜の入替は、アッラーが真実なる御方だからである。よってその教えも真理であり、その約束も真理であり、かれの信者たちへの援助も真理である。だが、多神教徒がアッラー以外の偶像を崇めるのは根拠のない虚偽であり、アッラーこそはその被造物にその本質においても力においても優れ、威厳と尊厳、荘厳さをお持ちの大いなる御方である。

⑥③ 使徒よ、アッラーが空から雨を降らし、雨が降った後で大地が生い茂る植物によって緑色になるのを見なかったか。アッラーは雨を降らし、大地に植物を茂らせる、僕たち(人間)に優しい御方であり、不鮮明なことは何一つなく、彼らにとって何が本当に役立つかを熟知した御方である。

⑥④ かれにのみ諸天と大地の王権は属す。本当にアッラーこそは被造物の何ものをも必要とされない満ち足りた御方であり、万事において称えられる御方である。

本諸節の功德:

- イスラームにおけるヒジュラ(信仰のための移住)の地位とその美德の解説。
- 同害報復の許可。
- アッラーが敵対行為を受けた側を助けてくださるのは、この世とあの世でのこと。
- アッラーの荘厳さに相応しいかたちで知識や聴覚、視覚、高みといった高等な特徴が定められている。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ سَخَّرَ لَكُمْ مَافِي الْأَرْضِ وَالْفُلْكَ تَجْرِي فِي الْبَحْرِ بِأَمْرِهِ وَيُمْسِكُ السَّمَاءَ أَنْ تَقَعَ عَلَى الْأَرْضِ إِلَّا بِإِذْنِهِ إِنَّ اللَّهَ بِالنَّاسِ لَرءُوفٌ رَحِيمٌ ﴿٦٥﴾ وَهُوَ الَّذِي أَحْيَاكُمْ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ يُحْيِيكُمْ إِنَّ الْإِنْسَانَ لَكَفُورٌ ﴿٦٦﴾ لِكُلِّ أُمَّةٍ جَعَلْنَا مَنْسَكًا هُمْ نَاسِكُوهُ فَلَا يُبْتَلَىٰ عَنْكَ فِي الْأَمْرِ وَادْعُ إِلَىٰ رَبِّكَ إِنَّكَ لَعَلَىٰ هُدًى مُسْتَقِيمٌ ﴿٦٧﴾ وَإِنْ جَدَلُوكَ فَقُلْ اللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿٦٨﴾ اللَّهُ يَحْكُمُ بَيْنَكُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فِيمَا كُنْتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ﴿٦٩﴾ أَلَمْ تَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ إِنَّ ذَلِكَ فِي كِتَابٍ إِنَّ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ﴿٧٠﴾ وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ مَا لَمْ يُنَزَّلْ بِهِ سُلْطَانًا وَمَا لَيْسَ لَهُمْ بِهِ عِلْمٌ وَمَا لِلظَّالِمِينَ مِن نَّصِيرٍ ﴿٧١﴾ وَإِذَا تَلَّىٰ عَلَيْهِمْ آيَاتُنَا بَيَّنَّتْ تَعْرِفُ فِي وُجُوهِ الَّذِينَ كَفَرُوا الْمُنْكَرَ يَكَادُونَ يَسْطُونَ بِالَّذِينَ يَتْلُونَ عَلَيْهِمْ آيَاتِنَا قُلْ أَفَأَنْتُمْ كُفْرًا بِشَرِّ مَن ذَلِكُمُ النَّارُ وَعَدَّهَا اللَّهُ الَّذِينَ كَفَرُوا وَبَشَّ الْمَصِيرُ ﴿٧٢﴾

65)使徒よ、アッラーがあなたと人々の必要を満たし、役に立てられるよう、地上の家畜や鉱物を従わせてくださり、海を行く船をそのご命令であなたがたが国から国へと移動できるようにしてくださり、地上に勝手に落ちないように天を支えてくださっているのがわからないか。お許しになりさえすれば、天は地上に落ちてきてしまうのである。地上で(人による)罪悪があるにもかかわらず、本当にアッラーは人々に対して慈悲深く情け深い御方。

66)アッラーこそはあなたがたを無から有へと生を授けてくださった御方であり、寿命が尽きればあなたがたを死なせ、それから死後に生前の行いを清算して報いるためにまたあなたがたを蘇らせる。本当に人間はアッラーの恩恵が明らかなのにもかかわらず、他のものを崇めることで大きな不義理をなしている。

67)すべての宗教の信奉者に教えを定めた。だから彼らはそれに従っているのである。使徒よ、彼らは間違っており、あなたのほうが正しいのだから、多神教徒や異教徒とあなたの教えについて言い争ってはならない。人々をアッラーのみに純真にお仕えする信仰へといざなえ。あなたは曲がったところのない、真っ直ぐな道にあるのだ。

68)証拠が明らかになってなお信仰を拒み議論するようなら、彼らの事はアッラーにお任せし、警告として言うがよい。「アッラーはあなたがたのすることを知っておられます。あなたがたの行いでかれにわからないことは何一つなく、行いに応じて報いられるのです。」

69)アッラーは僕たち、すなわち信者と不信者とを宗教において生前意見を異にしていたことにつき、審判の日にかれる。

70)使徒よ、アッラーにとっては天地にあることも、またその間にあることも何一つ不鮮明なことではなく、その知はすべて庇護された碑版に記録されており、アッラーにとってはすべてが容易だということを知らなかったか。

71)多神教徒はアッラー以外に偶像を崇めているが、かれの諸啓典でその根拠となるものを下されたことはなく、知識として(偶像崇拜の)証となるものはない。彼らの拠り所は祖先への盲目的な踏襲であり、不義をなす者をアッラーの懲罰から防いでくれる援助者はいないのである。

72)クルアーンの章句を彼らに明確に読み上げると、アッラーを信じない者の顔のしかめ面からありありと彼らの拒絶が見てとれ、怒りのあまりわれらの印を読み上げる者に襲いかかりそうなほどである。使徒よ、彼らに言うがよい。「あなたがたの苛立ちやしかめ面よりも酷いことをお伝えしましょうか。それはアッラーが不信者を入れると約束された火獄です。そこに落とされる者の行末のなんとおぞましいことでしょう。」

本諸節の功德:

- 人々へのアッラーの恩恵の一つ、それは諸天にあるものを利用できるようにしてくださったことである。
- 至高のアッラーの特徴として、温情と慈悲がある。
- 諸天と大地、その両者にあるものについてのアッラーの知の網羅性。
- 慣習の盲従、それが多神教徒の多神崇拜の原因である。

يَأْتِيهَا النَّاسُ ضُرِبَ مَثَلٍ فَاَسْتَمِعُوا لَهُ وَإِنَّ الَّذِينَ
تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ لَنْ يَخْلُقُوا ذُبَابًا وَلَوْ اجْتَمَعُوا لَهُ
وَإِنْ يَسْلُبْهُمُ الذُّبَابُ شَيْئًا لَا يَسْتَنْقِذُوهُ مِنْهُ ضَعُفَ
الطَّالِبِ وَالْمَطْلُوبِ ﴿٧٦﴾ مَا قَدَرُوا اللَّهَ حَقَّ قَدْرِهِ إِنَّ اللَّهَ
لَقَوِيٌّ عَزِيزٌ ﴿٧٧﴾ اللَّهُ يَصْطَفِي مِنَ الْمَلَائِكَةِ رُسُلًا
وَمِنَ النَّاسِ إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ بَصِيرٌ ﴿٧٨﴾ يَعْلَمُ مَا بَيْنَ
أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَإِلَى اللَّهِ تُرْجَعُ الْأُمُورُ ﴿٧٩﴾ يَأْتِيهَا
الَّذِينَ آمَنُوا أَكْعَبُوا وَاسْجُدُوا وَعَبَدُوا رَبَّكُمْ
وَأَفْعَلُوا الْخَيْرَ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿٨٠﴾ وَجَاهِدُوا فِي
اللَّهِ حَقَّ جِهَادِهِ هُوَ اجْتَبَاكُمْ وَمَا جَعَلَ عَلَيْكُمْ
فِي الدِّينِ مِنْ حَرَجٍ مَثَلًا لِيُذَكِّرَ الَّذِينَ كَفَرُوا هُوَ سَمَّاكُمْ
الْمُكْرِمِينَ مِنْ قَبْلُ وَفِي هَذَا لِيَكُونَ الرَّسُولُ شَهِيدًا عَلَيْكُمْ
وَتَكُونُوا شُهَدَاءَ عَلَى النَّاسِ فَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ
وَاعْتَصِمُوا بِاللَّهِ هُوَ مَوْلَاكُمْ فَنِعْمَ الْمَوْلَى وَنِعْمَ النَّصِيرُ ﴿٨١﴾

سجدة

73 人々よ、例えが挙げられたからにはそれに耳を傾け、教訓を得ようとせよ。あなたがたがアッラー以外に崇める偶像などは、ハエほど小さなものですらつくることができない。たとえ万が一彼らが徒党を組んでそれをつくろうとしてもつくればはしない。たまたもしハエが彼らのもとにある良いものを摂取したとしても、彼らがそれを取り返すことはできない。ハエの創造もかなわず、ハエが摂取するものを取り返すこともできないのは、それ以上のことができない証でもある。それなのにあなたがたは一体なぜアッラー以外のものをそれが不能な存在であるにもかかわらず崇めるのか。

ハエが摂取したものを取り返すこともできない偶像神といった求める者も弱く、ハエというこの求められる者も弱いのである。

74 彼らはアッラーを崇めるにも、**かれ**の被造物を共に崇めることで正しい崇め方をしない。本当にアッラーは強靱な御方であり、そのお力によって諸天と大地、その間にあるものをお創りになられた。弱くて何も創ることのできない、多神教徒たちの偶像とは異なり、誰にも打ち負かすことのできない威力並びなき御方。

75 至高のアッラーは天使の中から使徒をお選びになるように、人間の中からも使徒をお選びになる。たとえばジブリールをある使徒に遣わしたように、ある天使たちを預言者たちに遣わし、使徒たちを人間に遣わされる。本当にアッラーは多神教徒が使徒について何を言っているか聴いておられ、メッセージを誰に与えるかも見ておられる。

76 至高なる**かれ**は天使や人間の使徒を創造される前から、彼らが死んだ後に至るまでよくご存知である。審判の日には、万事が**かれ**にのみ帰するのである。**かれ**はその僕たちを遣わし、その行いに応じて報いられる。

77 アッラーを信じて**かれ**が定めたことを実践する者よ、アッラーだけに礼拝を捧げ、跪拝せよ。望むものを得て、恐れるものから救われるよう、施しや近親の絆を結ぶことなどの善行をせよ。

78 そしてアッラーの道において純真な気持ちで懸命に努力せよ。**かれ**こそがあなたがたを選び、あなたがたの宗教を窮屈で厳しくないよう寛容なものとされたのである。この寛容な教えこそがあなたがたの父祖イブラーヒームの教えであり、アッラーはあなたがたのことを以前の啓典でもクルアーンにおいてもムスリムと呼ばれたのである。それは使徒が伝えるべき事を伝えたあなたがたへの証人となり、使徒たちは過去に伝えるべき事を伝えたのを以前の民にあなたがたが証言するため。だから礼拝を完全なかたちで捧げ、財産から施しを払い、アッラーに縋り、諸事において**かれ**を頼みとせよ。至高なる**かれ**は信者を守る最良の守護者であり、助けを求める者を助ける最良の援助者である。**かれ**に任せよ、そうすれば**かれ**が面倒を見てくださる。**かれ**に助けを求めよ。そうすれば**かれ**が助けてくださるだろう。

本諸節の功德:

- 意味を明確にするために例えを挙げることの大切さ。これは効果的な教育方法である。
- 偶像が最小限のものを創造できないのは、それ以外のものを創造できないことの証である。
- アッラーに同位者を並べ立てる多神崇拝の原因は、アッラーを十分に尊ばないことにある。
- 威力と威厳をアッラーの特徴として定めること。信者がこうしたアッラーの特徴を思い出すことの重要性。